



私たちの金沢大学 2017

大学を支えてくださるみなさまに“大学の今”を紹介します



平成28年度 主な行事

4月	1日：国際基幹教育院の看板除幕式 1日：金沢大学カード開設 7日：入学宣誓式 9日：大学院先進予防医学研究科が志賀町と連携協定締結 14日：大学院教職実践研究科の看板除幕式 14日：地域連携推進センターが長野県木島平村と協定締結 19日：大学院先進予防医学研究科の看板除幕式 26日：資料館が文科大臣から博物館相当施設に指定 27日：五箇山セミナーハウス開所
5月	4日～8日：医療看護班を熊本県に派遣 16日：薬用植物園管理棟の完成披露式 30日：環日本海域環境研究センターの看板上揚式 31日：名誉教授称号記授与式
6月	24～27日：タフツ大学から3名の事務職員を受け入れ
7月	GSC（グローバルサイエンスキャンパス）事業開始 2日：医学類ブロンズナード完成式・附属病院環境整備事業完成式 9日：ステーキホルダー協議会開催 21日：能登町と「人づくり・海づくり協定」締結 20日：HONDA ESTILO(株)と金沢市との「金沢大学スポーツ・地域活性化プロジェクト（仮称）」の実施に関する基本合意書調印 21日：衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員が本学視察 21日：北陸三県高等学校長との懇談会
8月	1日～31日：サマータイム実施 9日～10日：オープンキャンパス 25日：附属高校が台湾師範大学附属高級中学と「交流に関する覚書」を締結 25日～9月9日：JICA 北陸・金沢大学課題別研修「中東における基礎教育拡充のための教育行財政と学校運営の改善」コース開講
9月	16日：宮本憲一氏に金沢大学名誉博士の称号授与 21日：グアテマラ文化スポーツ省文化自然遺産副省とユネスコグアテマラ駐在代表事務所との「ティカル北のアクロポリスの保存」プロジェクトに関する合意書締結 26日：学位記授与式
10月	1日：入学宣誓式 5日：ジャン・ピエール・ソヴァージュ先生（リサーチプロフェッサー〔招へい型〕）がノーベル化学賞受賞 15日：高校生保護者向けキャンパス見学会を開催

10月	22日：珠洲市と持続可能社会構築に向けた知の拠点づくり協定締結 22日：能登学舎開設10周年記念式典 29日：ホームカミングデイ・留学生ホームカミングデイ 29日：ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー 29日～30日：金大祭
11月	5日～6日：医学展 12日：未来開拓研究公開シンポジウム開催 18日：スーパーグローバルハイスクール研究大会開催 23日：北陸4大学連携まちなかセミナー開催 24日：YKK(株)と男女共同参画の推進に関する協定締結
12月	3日：松野博一文部科学大臣来学 13日：第1回タフツ大学・金沢大ジョイントシンポジウム開催 19日：女性研究者ネットワーク（HWRN）シホ°ジウム開催 20日：金沢大学留学生懇談会開催
1月	31日：先端科学・イノベーション推進機構と(株)日本政策金融公庫金沢支店との産学連携の協力推進に関する覚書締結
2月	25日～26日：平成29年度一般入試（前期日程）
3月	4日：教職大学院フォーラム開催 11日：SGU 創成支援事業 KU-GLOCS シンポジウム開催 12日：平成29年度一般入試（後期日程） 21日：若者と地域の起業イベント INNOVA-EMOTION2017 開催 21日：JICA と包括連携協力協定締結 22日：学位記・修了証書授与式 25日：金沢大学北京事務所開所式 25日：金沢大学北京事務所開所記念第2回中国同窓会 28日：学生留学生宿舍「北溟」完成披露式



金沢大学の校章は、アカンサスの葉と大学の文字を図案化したデザインになっています。



今回の表紙の写真は、「輝く金沢大学フォトコンテスト」に応募いただいた写真の中から「顔」をテーマにピックアップしたものです。

目次

学長メッセージ	P2
YAMAZAKI プラン 2016	P3
教育の特色ある取り組み	P4-P6
特色ある大学院教育	P7
附属学校園の特色ある取り組み	P8
研究の特色ある取り組み	P 9-12
産学連携	P13
附属病院の特色ある取り組み	P14
社会貢献の特色ある取り組み	P15-P16
留学・国際交流の状況	P 17
留学支援等	P18
学習支援・経済支援	P19
経済支援	P20
進学・就職状況	P21
入試情報	P22-P23
財務状況	P24-P25
施設整備	P26
ガバナンス体制	P27
附属図書館・資料館	P28
同窓会・金沢大学基金	P29

学長メッセージ

皆が頑張る，地域に愛され，世界に輝く金沢大学の実現を目指し

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むことを金沢大学憲章で掲げています。第三期中期目標期間の初年度に当たる平成 28 年度には、国立大学機能強化の方向性に応じた三つの類型の中から、世界と伍して卓越した教育研究を展開する、いわゆる「世界卓越型」大学を目指すことを選択し、現在、全学を挙げて改革を推進しています。

本学は、学生が卒業までに身に付けるべき能力として「金沢大学<グローバル>スタンダード」(KUGS)を策定し、専門知識と課題探究能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材の育成を進めています。平成 28 年度に設置した国際基幹教育院では、KUGS を基軸とした共通教育改革と教育の国際化を推進しています。同年には先進予防医学研究科、教職実践研究科を設置し、平成 30 年度には北陸先端科学技術大学院大学との共同大学院設置を計画するなど、大学院教育の高度化と多様化によるイノベーション人材の育成に向けた取り組みも進めております。

研究面では、共同利用・共同研究拠点、新学術創成研究機構、研究域附属研究センター等における組織的な研究活動を先鋭化し、新たな強みとなる新領域・融合分野の創出による世界的研究拠点の形成を目指し、さまざまな施策を推し進めております。

また、4 年目を迎える文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業 (SGU) のもと、世界の先端に位置する真の“グローバル大学”を目指し、教育・研究環境の国際化ならびにグローバル社会で中核的リーダーとして活躍できる人材の育成に向けた取り組みを加速させていきます。

附属病院においては、医学・医療を担う人材育成、高度先進医療の提供、全学的な橋渡し研究や臨床研究の推進、北陸地域の中核病院としての地域医療への貢献を使命とし、先端医療開発センターや北陸 3 県にまたがる臨床研究ネットワーク（北陸臨床研究推進機構）等の体制を整えた上、一層の充実を図る取り組みを行っております。

本学は、「地域を知り、地域と共に歩み、地域と共に発展する」ために、これまで以上に充実した、教育研究活動及び地域貢献活動を行って参りますので、今後ともご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

プロフィール / 金沢大学長 山崎光悦 (やまざき こうえつ)

工学博士。1951 年 12 月、富山県小矢部市生まれ。金沢大学工学部卒業、同大学院工学研究科修士課程修了。金沢大学工学部助手、講師、助教授、教授を経て、2014 年 4 月に学長就任。専門は機械工学・設計工学。



YAMAZAKIプラン 2016

「YAMAZAKIプラン 2014」策定時以降の本学を取り巻く環境の変化に鑑み、海外大学と伍して世界的に卓越した教育研究、社会実装を推進すべく、新たな改革の行動計画「YAMAZAKIプラン 2016」を策定しました。

アクセスは
こちらから→



■ グローバル社会の中核的なリーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成

- Vision I 大学院教育の高度化と国際化によるイノベーション人材の育成
Vision II 学士課程の教育改革によるグローバル人材の育成
Vision III 入学から卒業までの徹底した学生支援

- ・イノベーション人材育成に向けた北陸先端大との融合科学共同大学院の創設（平成 30 年度予定）
- ・人間社会学域・理工学域の改組（平成 30 年度予定）による石川の地域特性を活かした教育と人材育成
- ・GS 科目等の体系的で幅広い教養の修得による KUGS(金沢大学<グローバル>スタンダード)の体現
- ・反転学習や PBL 等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業の大幅な増加
- ・「文系一括入試」「理系一括入試」の実施（平成 30 年度予定）による多様な人材の受入れ
- ・学生留学生宿舍「先魁」・「北溟」の整備と活用

■ 研究の先鋭化と新たな強みとなる新領域・融合分野の創出による世界的研究拠点の形成

- Vision IV 先進的・独創的研究の推進及び多様な基礎研究の充実
Vision V 研究力強化を促進する支援体制の整備

- ・新学術創成研究機構の拡充とがん進展制御研究所・環日本海域環境研究センターの研究拠点機能の強化
- ・学内 COE 制度（超然プロジェクト・先魁プロジェクト）による重点的な研究支援

■ 真のグローバル大学に向けたグローバル・ネットワークの形成と国際頭脳循環の積極的推進

- Vision VI 強力な国際競争力を備えた研究ネットワーク形成
Vision VII 国際レベルの人材交流によるキャンパス環境のグローバル化

- ・タフツ大学をはじめとする世界トップレベル大学との交流拡大と研究者の派遣・受入の増加
- ・コラボラティブプロフェッサーや国際交流アドバイザー等と連携した国際交流支援体制の強化
- ・海外拠点の拡充や奨学金制度の拡充等による学生の派遣留学環境の充実

■ 世界と地域との還流による社会貢献・社会実装

- Vision VIII 持続的社会的実現に向けた社会貢献
Vision IX 世界に誇る研究成果の社会実装

- ・社会人の学び直しの観点を含めた実学重視の学習事業の開発・実施
- ・附属図書館や資料館が有する資料等の積極的公開と利用推進
- ・研究成果の社会実装を目指した「自動運転システム」等の産学官連携プロジェクトの展開

■ 積極的なガバナンス改革による戦略的マネジメントの推進

- Vision X 大学改革・機能強化を推進する大学運営
Vision XI 戦略的・効果的な財政運営の推進
Vision XII グローバル化に対応する教育研究環境の整備

- ・学長による部局長面談の実施や部局目標の設定及びフォローアップ
- ・ステークホルダー協議会やホームカミングデイ等の実施

■ 高度臨床研究と中核的な医療拠点としての機能強化に向けた附属病院改革の推進

- Vision XIII 臨床研究の推進と先進的医療を担う人材の育成
Vision XIV 地域中核病院としての機能強化

- ・先端医療開発センターによる臨床研究の積極的支援
- ・CPD センター等を活用した医療従事者の専門教育・安全教育・リカレント教育の実施
- ・いしかわ診療情報共有ネットワーク等の活用による質の高い地域医療の提供

教育の特色ある取り組み

学域学類制

本学では、学生一人ひとりの成長を無理なく促して、社会に必要とされる能力を身につけるため柔軟な進路選択に適した教育のしくみを用意しています。

「学類」という幅広い枠組みでの入学

入学の基本的な単位を「学類」とすることで、これまでの「学部・学科」より幅広く大きな枠組みでの学びのスタートとなります。そこで学びの基礎を固めつつ、自分が本当にやりたいテーマを探ることができるので、入学するときに何を自分のテーマにするか、必ずしも決め込む必要がありません。

〔注：薬学類と創薬科学類は2学類一括の募集。保健学類は専攻単位での入試。〕

基礎を学んでから専門領域を決める「経過選択制」

人間社会学域や理工学域では主に2年目に、一人ひとりが自分の志望や適性に合わせて専門領域（コース）を決めます。医薬保健学域では、薬学類か創薬科学類かの選択を3年後期に行います。この「経過選択制」によって、基礎基本を学びながら、ゆっくりじっくり、自分のテーマを選ぶことができます。〔注：医学類と保健学類は資格取得の関係から未導入。〕また、入学後に異なる学問分野に興味を持った場合は、「転学類制度」や「転コース制度」により進路変更することも可能です。

「文系後期一括、理系後期一括」入試

平成30年度入試から、後期日程の一部として「文系後期一括入試」、「理系後期一括入試」を実施します。募集人員は文系62名と理系82名を予定しています。また、本入試による入学者の学類への分属時期は、1年終了時（2年次から学類に所属する。）としており、本人の希望、入学後の成績等に基づいて個別指導を通して所属学類（学類によってはコースまで）を決定する予定です。

国際基幹教育院の設置

国際基幹教育院は、共通教育を含めた基幹教育の推進を目的として、平成28年度に新設しました。

本教育院に専任教員を配置。また、共通教育科目と学問的に深い関与がある学類等の専任教員が授業担当教員として協力することで、授業内容の標準化を図るとともに、共通教育の実施に責任を持ちます。

金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）

グローバル化が不可逆的に進行する現在の国際社会において、大学憲章に掲げる基本的な教育目標を実現するために、本学が育成する人材の具体的な姿として、「金沢大学<グローバル>スタンダード」を定め、これを実現するための様々な教育を行います。

5つのスタンダード

各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材を育成します。

金沢大学<グローバル>スタンダード

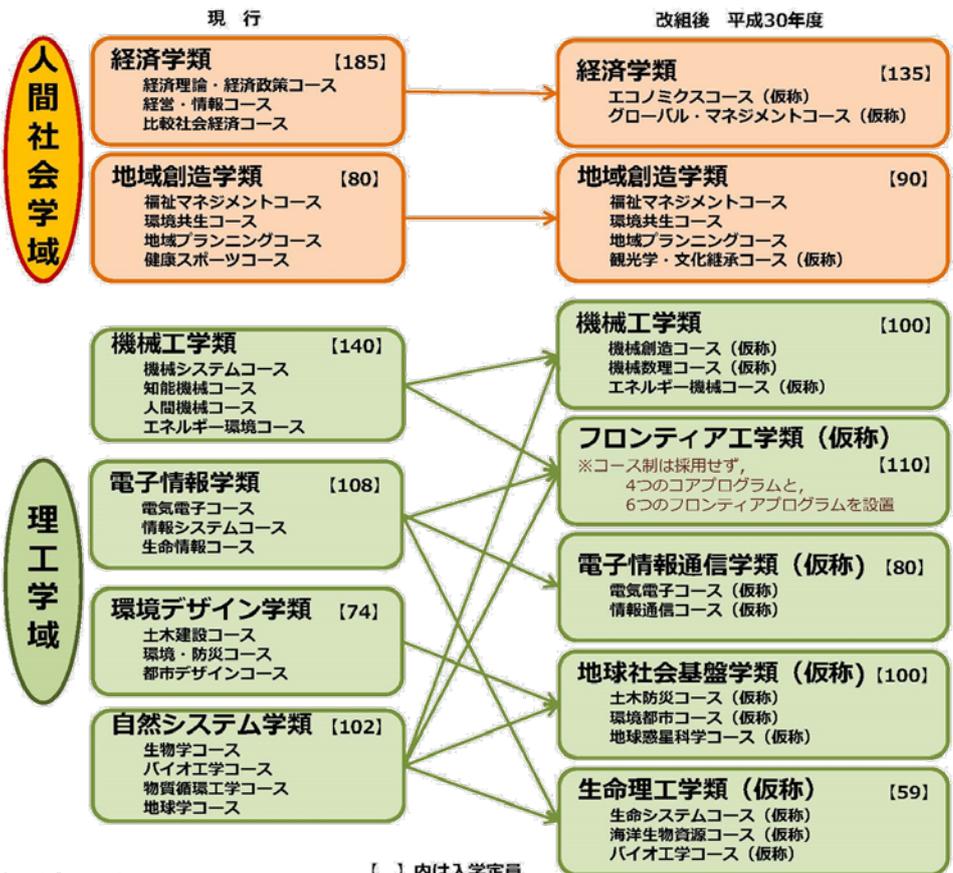
基準1	基準2	基準3	基準4	基準5
自己の立ち位置を知る	自己を知り、自己を鍛える	考え・価値観を表現する	世界とつながる	未来の課題に取り組む
鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力	自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力	論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力	他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力	科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力

平成 30 年度学類再編

平成 30 年度に、本学の強みを生かし時代の要請に応えるべく学類の再編を予定しています。

学域・学類のダイナミックな交流のもと、未来志向の研究に積極的に取り組み、質の高い学びを提供します。

なお、現時点での構想内容であり、今後、変更する場合があります。



[観光文化都市金沢で学ぶ]

観光学・文化継承コース (仮称) の新設

金沢の伝統工芸や伝統文化、能登の里山・里海など、自然資源や文化資源の価値や地域との関わりについて学びます。自然や文化と人間社会の共生を目指し、地域的課題の調査・分析を行い、観光を通じた豊かな社会を構想できる人材を育成します。



[グローバル化へ対応できる人材育成]

経済学類のコース再編

経済学類は、これまでの3コースを「エコノミクスコース」と「グローバル・マネジメントコース」の2コースに再編し、グローバル化が進む中で現代社会が直面する諸問題に対処可能な能力を持った人材を育成します。

[工学の未踏領域を切り拓き、未来のテクノロジーを創造する]

フロンティア工学類 (仮称) の新設

技術革新が急速に進む現代社会では、さまざまな工学の知識や技を組み合わせ、未来社会を切り拓いていく能力が求められています。これらの能力を身に付けるために、コース制を採用せず、ロボティクス、自動運転、人間支援、ナノセンシング、マテリアルなど、様々なテクノロジーの融合に関する「プログラム」を組み合わせ、従来の工学の枠を超えた未踏領域を開拓する素養を身に付けます。



[能登半島の自然を生かす]

海洋生物資源コース (仮称) の新設

海洋とそれに繋がる陸水圏を対象に、分子から細胞、個体、生態系レベルの生物学を学び、生命科学と環境科学を融合する方法論、分析法、思考法を身に付けます。21世紀における生命・環境・資源に関わる問題を解決できる研究者・技術者・教育者の育成を目指します。

教育の特色ある取り組み

グローバル社会をリードする人材の育成を目標に、強みと特色を生かした教育活動を行っています。

スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業

スーパーグローバル大学(SGU)創成支援事業とは、世界トップレベルの研究を行う大学や国際化を牽引する大学を重点的に支援する文部科学省の事業です。本学は、平成 26 年度「徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立」をテーマにこの事業に採択されました。東アジアの知の拠点としての機能をこれまで以上に強化するため、国際化に必要な大学改革を進めます。その結果としての 10 年後の金沢大学の姿を以下の 3 つで表します。

- ① 独自のグローバル人材育成スタンダードに基づく質の高い教育を提供する大学
- ② 世界で活躍する「金沢大学ブランド」の人材を輩出し、日本のグローバル化を牽引する大学
- ③ 東アジアの地において世界の高等教育研究ネットワークの中核に位置する大学

10 年後の目標値	2013 年	→	2023 年
外国人教員及び海外で学位取得・教育研究歴をもつ教員の比率	17.3%		50%
全学生に占める外国人留学生の割合	7.0%		20%
日本人学生に占める留学経験者の割合	1.8%		11.6%
英語による授業〔大学院課程〕	3.9%		100%
英語による授業〔学士課程〕	2.4%		50%
学生の語学レベル（英語）を設定	2023 年は TOEIC 760 点, TOEFL-iBT 80 点		

大学教育再生加速プログラム（AP）

大学教育再生加速プログラム（AP）とは、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援する文部科学省の事業です。本学は、平成 26 年度「学生の主体性を涵養するカリキュラム・教育方法・学修支援環境の総合的な改革」をテーマに、この事業に採択され、以下の 3 つの施策に取り組んでいます。

①学域・学類の中核科目群でのアクティブ・ラーニングの深化・充実、②アクティブ・ラーニングに適した学修環境の活用・展開、③学修過程・成果の可視化による学修評価の定量的評価（IR）。

また、授業時間内外で受講生のアクティブ・ラーニングの支援をする学生スタッフ、アクティブ・ラーニング・アドバイザー（ALA）制度を活用しています。受講生の学修を充実させ質を高めること、そして ALA 自身がさまざまな知識や能力を高めることを目的としています。

人間力強化プログラム 学長と行く合宿シリーズ ～地域「超」体験プログラム～

己を鍛え、己を磨き続ける学生生活を送るために、仲間と苦楽を共にする環境下で、体力・精神力の重要性と多様な価値観の存在、社会の一員であることの自覚を目的としています。

平成 27 年度から 1 単位科目として本格導入しました。平成 28 年度は、いしかわシティ・カレッジと連携した事前講義を実施し、民泊・坐禅・学長講義・ボランティア活動をプログラムとする合宿を 4 回（珠洲、小木、白山麓、五箇山）実施しています。



小木合宿 草刈り作業

グローバルサイエンスキャンパス（GSC）

世界でかがやく科学技術イノベーション人材の育成

グローバルサイエンスキャンパス（GSC）とは、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成することを目的として、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生などを募集・選抜し、国際的な活動を含む高度で体系的な理数教育プログラムの開発・実施などを行う大学を、科学技術振興機構（JST）が支援する事業です。本学は、平成 28 年度「世界でかがやく科学技術イノベーション人材の育成」をテーマに採択され、北陸周辺地域（石川、富山、福井、新潟、長野、岐阜）の未来を担う高校生の育成拠点として、国際的に活躍する次世代の傑出した科学技術人材育成へのスタートポイントとなることを目指しています。

特色ある大学院教育

高度な専門性を有する人材の育成に向け、さまざまな教育を行っています。

先進的な予防医学を目指して

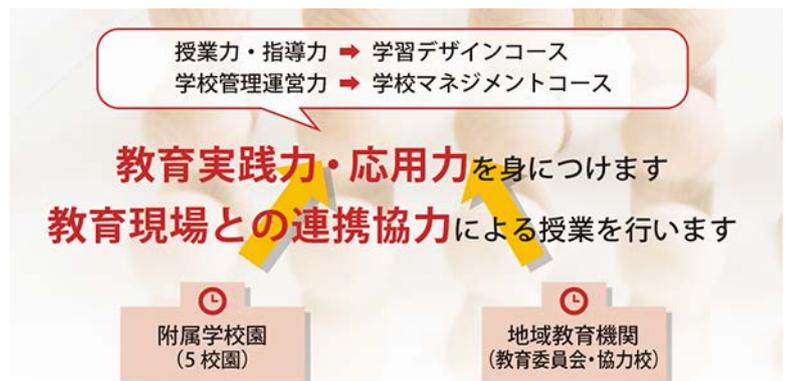
平成 28 年度に、**大学院先進予防医学研究科**の下に、金沢大学・千葉大学・長崎大学の 3 大学による「先進予防医学共同専攻（共同大学院）」を設置しました。この共同大学院では、従来の衛生学・公衆衛生学分野を基盤としながら、個人の環境の特性を網羅的に分析・評価し、0次予防から3次予防までを包括した「個別化予防」を実現する「先進予防医学」を実践できる専門家を育成します。



学校教育の課題に取り組む専門家を養成！

高度な実践力を備えた教員を養成するための専門職大学院として、平成 28 年度に**教職実践研究科**を設置しました。

地域特性や教育課題を踏まえ、学校教育に関する高度の学識及び実践力・応用力を備え、特に子どもたちの主体的・能動的な学習をデザインし、支援する力において全県レベルでリーダー的役割を果たしうる優れた教員（新採教員や若手・中堅教員）、並びにそのような教員から組織される学校において、確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備え、地域や家庭と連携しつつ学校の管理運営において指導的役割を果たし得る中核的教員を養成します。



科学技術イノベーションに挑む！異分野融合で挑む！

平成 30 年度に、**大学院新学術創成研究科**（仮称）融合科学共同専攻（仮称）の設置を予定しています。

現代社会において、卓越した発想と行動力を基に、社会を力強く導いていけるような「科学技術イノベーション人材」を育成するため、金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学の 2 大学で設置する共同大学院です。

イノベーションの源泉である「新たな知」の創造は、複数の科学分野の“融合”から生まれるとの考えから、新しい研究領域に挑戦する“融合型大学院教育モデル”の構築を目指します。



健康的で質の高いライフスタイルの創出

Key word

個々の健康的なライフスタイルに資する生物学的・生体的機能の計測・解明・制御と、その応用



環境に適合した次世代型<材料・デバイス・エネルギー>の創生

Key word

自然エネルギー・再生可能エネルギーの創出、貯蔵、輸送／新素材やナノテクノロジーを利用した省エネルギーデバイス開発



科学技術と人や社会とが調和した未来社会の創造

Key word

ビッグデータや人工知能（AI）を活用した知的システムの開発／生物をヒントにしたシステム・機械の開発／自然環境や文化的環境等を踏まえた社会環境改善

附属学校園の特色ある取り組み

総合大学としては数少ない、5つの附属学校園が設置されています。

附属幼稚園：里山自然教育

本学環境保全センターの角間里山プロジェクトと連携した「金沢大学里山ゾーンを活用した幼児向け自然教育プログラムの開発」の参画をきっかけに、年長組が年間を通じて角間の里山ゾーンを利用し、自然体験活動に取り組んでいます。



「里山自然教育」で自然と触れ合う幼児たち

附属小学校：よりよい未来を志向する子の育成

今年度は新たな研究のスタートとなります。研究主題を「よりよい未来を志向する子の育成」、副題を「決める授業をデザインする」として実践教育研究を取り組みます。子どもが、根拠をもって自分なりの思いや考えを表出し、他と関わりながら、よりよいものへと変えて行動できるよう、子ども自身が決める授業づくりを積み重ねていきます。



予想を確認しながら実験する児童

附属中学校：「伝統文化」をテーマに教科等横断的なカリキュラムの開発に着手

平成 29 年度 国立教育政策研究所 教育課程研究校（2年間）の指定を受けました。この3年間おこなってきたESDの実践研究を基盤に、研究主題「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発」のもと、教科等の連携による体系的な伝統文化に関する教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究に取り組んでいます。初年度は、特に、「教材のつながり」「育成できる資質・能力」を中心に研究を進めています。



分科会で熱心に議論する参加者

附属高校：スーパーグローバルハイスクール研究校

平成 26 年度文部科学省「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」研究校（5年間）の指定を受けました。「北陸からイノベーションで世界を変えるグローバルリーダーの育成」を目標に掲げて、研究事業を推進しています。シームレスな高大連携モデルとして金沢大学から全面的な支援を受け、大学のグローバル人材育成機構中のプログラムの一つに位置付けられ、「SGH 特区教育センター」が設置されました。



【平成 28 年度実施した3つの取組】

- ① 第1学年「地域課題研究」・「異文化研究」、
第2学年「グローバル提案」、
第3学年「グローバル・キャリアパス」
- ② 各教科のSGH化
- ③ 外部資源の活用

「グローバル提案」授業で各国代表になりきり世界の食糧安全保障の枠組みを協議する生徒

附属特別支援学校：キャリア発達支援

児童生徒の社会的・職業的自立を指向し、キャリア発達支援の視点で授業づくりや学校改善に取り組んでいます。



教育研究会で、学びの成果をポスター発表する高等部生徒

研究の特色ある取り組み

研究力を強化する新人事戦略

— リサーチプロフェッサー制度 —



平成 26 年度より、優れた研究力を有する教員を確保するとともに研究に専念する環境を整備するため、「リサーチプロフェッサー制度」を導入しました。リサーチプロフェッサーは、「研究力強化を念頭に置いた人事制度改革」の一つであり、大学の管理運営に関する業務等を免除するなど、大学全体の研究力強化を図る制度です。この制度は、次の 3 類型から成り立っています。

1. 招へい型

極めて顕著な業績を有する研究者を国内外から招へいしています。コンカレント・アポイントメント制度^(注1)の適用も可能とするなど、より柔軟な人事制度によって、本学の「超然プロジェクト」等に参画し、世界に通用する拠点形成に向けた研究に従事しています。

リサーチプロフェッサー（招へい型）研究者		平成 28 年度末現在
 <p>Adam.S.Foster アールト大学 教授 【専門分野】計算科学, ナノ構造物理, 薄膜・表面界面物性 超然-1 に参画 (※)</p>	 <p>Lucia Dolce ロンドン大学 SOAS 准教授 【専門分野】中国哲学・印度哲学・仏教学, 宗教学 超然-4 に参画 (※)</p>	
 <p>清木 元治 専任 【専門分野】分子生物学, 腫瘍学, ウィルス腫瘍学 超然-2 に参画 (※)</p>	 <p>Jean-Pierre Sauvage フランス ストラスブール大学 名誉教授 【専門分野】超分子化学 超然-5 に参画 (※)</p>	
 <p>武藤 誠 京都大学 名誉教授 【専門分野】実験病理学, 病態医科学 超然-3 に参画 (※)</p>	 <p>Stephen Brian Pointing ニュージーランド オークランド工科大学 教授 【専門分野】エアロソル微生物と微生物地理, バイオロジー 本学が採択を受ける「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」に参画</p>	
 <p>Nicholas Barker シンガポール Institute of Medical Biology 主席研究員 【専門分野】細胞生物学, 腫瘍生物学 超然-3 に参画 (※)</p>		

(※) 次頁「超然プロジェクト」参照

2. 登用型

研究力の更なる強化のため、顕著な業績を有する学内の常勤教員を本制度により登用し、リサーチプロフェッサーに任命しています。(平成 28 年度末現在：11 名)

3. 若手型

一定の研究業績をもとに、研究の飛躍的進展が見込まれる学内外の若手研究者（40 歳以下）を、主に公募により採用しています。(平成 28 年度末現在：21 名)

(注 1) コンカレント・アポイントメント制度 他の機関との協定に基づき、相手機関の職員としての身分を有する者が、本学の常勤の教員として業務に従事することを可能とした制度。平成 27 年 4 月に制定。

海外研究拠点形成の加速化

平成 28 年 12 月 13 日、アメリカ合衆国のタフツ大学において、第 1 回タフツ大学・金沢大学ジョイントシンポジウム (The First Tufts University – Kanazawa University Joint Symposium on Structure and Function of Molecules, Tissues, and Organisms) 及びポスターセッションを開催しました。

シンポジウムでは、本学の山崎学長、タフツ大学工学部長らのあいさつに続き、本学側 4 名とタフツ大学側 6 名の教員がそれぞれの研究内容を発表したほか、ポスターセッションも併せて実施。同大の教員や学生、約 70 名が参加しました。また、シンポジウム後には、金沢大学メドフォード事務所看板上掲も行われました。今年度もヨーロッパで同様のシンポジウムを開催し、順次海外研究拠点を形成していく予定です。



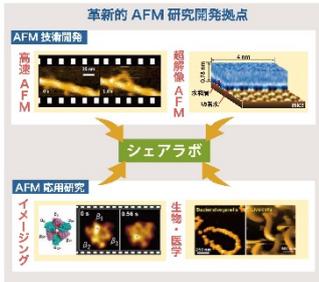
左から 2 番目：Dr. Anthony P. Monaco / President
左：Dr. David Harris / Provost and Senior Vice President

研究の特色ある取り組み

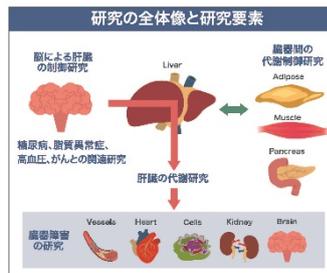
世界的研究拠点を目指す — 超然プロジェクト —

世界的な研究拠点を形成し全学的な研究力強化につなげることで「世界に誇る金沢大学」を実現するため、平成 26 年度から「超然プロジェクト」を実施しています。

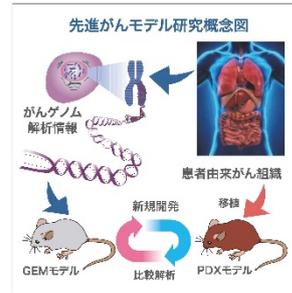
超然-1 革新的原子間力顕微鏡技術によるナノサイエンス研究拠点の形成
理工研究域電子情報学系
教授 福間 剛士



超然-2 “栄養が関連する疾病”を克服する拠点の形成
医薬保健研究域医学系
教授 金子 周一



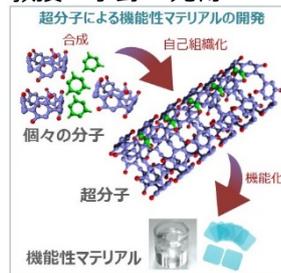
超然-3 がん進展機構の本態解明を目指す研究拠点強化プロジェクト
がん進展制御研究所
教授 大島 正伸



超然-4 文化資源マネジメントの世界的研究・教育拠点形成
人間社会研究域歴史言語文化学系
教授 中村 慎一



超然-5 超分子による革新的マテリアル開発の拠点形成
新学術創成研究機構
教授 水野 元博



新たな領域の創成へ — 新学術創成研究機構 (InFiniti) —

本学に優位性のある研究の更なる強化と、学問分野融合型研究の一層の進展、国際頭脳循環の一層の拡充による革新的な研究成果の創出を目指し、平成 27 年度に新学術創成研究機構を設置しました。

がん進展制御研究コア Cancer Research Core がん進展機構の本態解明の研究と革新的がん治療の開発を実施する	先進がんモデル研究ユニット	がん幹細胞研究ユニット
	がん微小環境研究ユニット	がん分子標的探索応用ユニット
革新的統合バイオ研究コア Innovative Integrated Bio-Research Core 次世代バイオテクノロジーの研究開発,その応用等による健康長寿・循環型社会の構築に資する研究開発を実施する	高速バイオAFM応用研究ユニット	セルバイオノミクスユニット
	創薬分子プローブ研究ユニット	先進的ヘルスケアサイエンスユニット
	栄養・代謝研究ユニット	数理神経科学ユニット
未来社会創造研究コア Future Society Creation Research Core 未来社会を担う技術の研究開発,自立型社会システムの構築に資する研究開発・実証実験を実施する	文化遺産国際協働ネットワークユニット	機能性超分子マテリアルユニット
	自動運転ユニット	バイオイノペーティブデザインユニット
	再生可能エネルギーユニット	バイオマスリファイナリーユニット

「異分野融合グループワーク」成果発表会開催



「異分野融合グループワーク」は、学生の異分野融合研究に向けた資質を涵養することを目的に、人文・社会科学、自然科学、医薬保健学の各分野を専攻する登録学生がグループに分かれ、約2か月間に亘って、異分野融合の可能性を探るグループワークを行うものです。発表会では、5グループから、英語又は日本語による成果発表があり、教員・学生を合わせ約50名の参加者が白熱した議論を繰り広げました。

大学の枠を超える

— 共同利用・共同研究拠点 —

文部科学省は、「我が国全体の学術研究の更なる発展のためには、国公私立大学を問わず大学の研究ポテンシャルを活用し、研究者が共同で研究を行う体制を整備することが重要」とし、拠点認定を行っています。平成29年4月現在、国立大学では72拠点が認定され、本学は次の2拠点が認定されています。

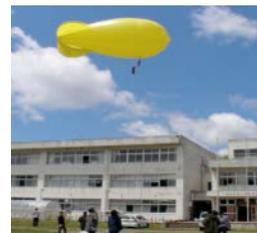
がん進展制御研究所

全国の国立大学附置研究所の中で**唯一の「がん研究」に特化**した研究所です。医学・薬学・獣医学および理工学の幅広い分野の研究者が集結し、がんの悪性化機構の本態解明とその制御による先制医療の実現を目指した研究を推進しています。

環日本海域環境研究センター

金沢大学の地理的な特色を生かして、環日本海域から東アジアにおける種々の環境問題の科学的研究による解決に積極的に取り組んでいます。平成28年度から**「越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点」**に新たに認定され、これまでの大気・海洋・陸域ごとの研究を統合して先進的調査研究を推進する「統合環境学」を創成し、研究成果を世界に発信しています。

能登大気観測
スーパーサイト



低レベル放射能実
験施設
国内で唯一、
世界でも数少ない
微弱放射能測定施設



世界的研究拠点へ

NEW!

先進予防医学研究センター

医薬保健研究域の域内センターであった脳・肝インターフェースメディシン研究センターを、平成29年6月1日、新たに学内共同教育研究施設となった「先進予防医学研究センター」へ統合しました。

予防医学研究の一大拠点として、世界を牽引する研究を推進していくことが期待されています。

国内トップクラスの研究支援

— 先端科学・イノベーション推進機構（O-FSI） —

基礎研究から応用研究に至る全領域の研究支援と産学官連携により得られる研究成果の社会還元を促進するため、平成24年4月に設置されました。プロジェクトの立案から研究資金獲得、研究成果発信、知的財産管理、産学官連携まで幅広い支援を行っています。

先端科学・イノベーション推進機構協力会

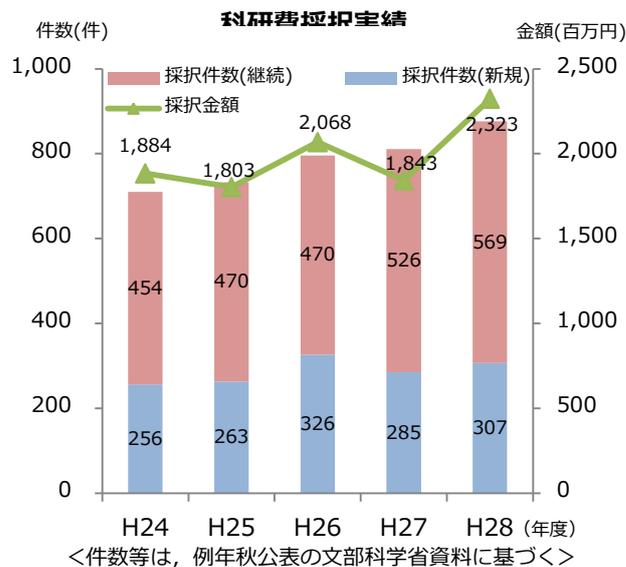
O-FSIの実施する事業を支援し、産業界との連携の下に産業技術の向上と育成を進めることを目的として、平成13年度に設置されました。現在101社が協力企業となっています。

研究の特色ある取り組み

□ 科研費採択状況

科研費は、人文・社会科学から自然科学まで、基礎から応用に及ぶあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）の発展を目的とする、我が国最大規模の研究助成制度です。本学では、科研費獲得に向けた支援を全学的に行っており、平成 28 年度科研費の採択件数は、881 件（うち新規採択 312 件）となりました。

平成 28 年度の採択件数・金額は、いずれも過去最高であり、また、いわゆる旧六大学（金沢大、新潟大、岡山大、千葉大、長崎大、熊本大）の中で採択件数・金額共に 1 位となりました。なお、国内研究機関での採択件数順位は 14 位（新規のみは 13 位）です。



□ 主要公募事業の採択実績

文部科学省事業をはじめとする各種公募事業の採択を受け、先進的な研究活動を行っています。以下は、平成 28 年度に採択された主な実績です。



戦略的創造研究推進事業（科学技術振興機構）

- ・ 界面をもつポリマー流体の 3 次元挙動の数理解析 理工研究域数物科学系 准教授 野津 裕史
- ・ 環状バナデートによる特異的な酸化剤の活性化 理工研究域物質化学系 助教 菊川 雄司

卓越研究員事業（文部科学省 科学技術人材育成費補助事業/日本学術振興会）

- ・ 研究分野：工学 理工研究域環境デザイン学系 助教 松浦 哲久
- ・ 研究分野：総合生物 がん進展制御研究所 助教 武田 はるな

□ 各種受賞 平成 28 年度の主な受賞

賞名	所属・職名	氏名
2016 年ノーベル化学賞	新学術創成研究機構 機能性超分子マテリアルユニット リサーチプロフェッサー（招へい型）	Jean-Pierre Sauvage （ジャン＝ピエール・ソヴァージュ）
文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）	環日本海域環境研究センター 特任教授	早川 和一
文部科学大臣表彰 若手科学者賞	理工研究域電子情報学系 准教授	高橋 康史
第 41 回（平成 28 年度）井上春成賞表彰技術	理工研究域バイオ AFM 先端研究センター 特任教授	安藤 敏夫
“For the People’s Health” from the Ministry of Health in Vietnam	医薬保健研究域医学系 教授	市村 宏
第 70 回北國文化賞	人間社会研究域歴史言語文化学系 教授	中村 慎一
経済産業省 平成 28 年度工業標準化事業表彰	理工研究域自然システム学系 教授	大谷 吉生
公益財団法人通信文化協会 第 62 回前島密賞（功績 2 号）	理工研究域電子情報学系 教授	三好 正人
第 3 回宇宙科学研究所賞（平成 28 年度）	総合メディア基盤センター 教授	笠原 禎也

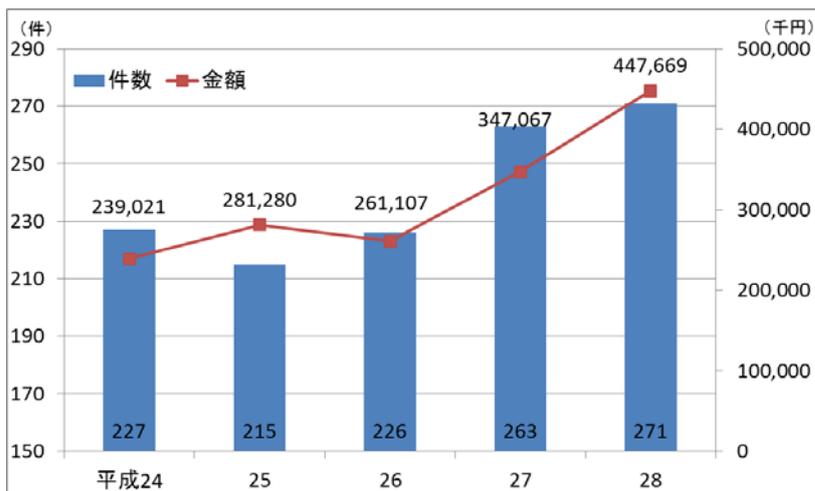
産学連携

□共同研究の状況

共同研究とは、企業等から研究費等を受入れ、民間の研究者と本学の研究者が、対等の立場で共通の課題に取り組む制度です。優れた研究成果をいち早く社会に還元することを目指し、本学も積極的に推進しています。

本学の共同研究実施件数は平成27年度に大幅に増加しましたが、平成28年度は271件と更に増加し、また実施総額も平成27年度から1億円強の増額となりました。文部科学省の「平成27年度大学等における産学連携等実施状況調査」民間企業との共同研究受入額（研究者数1,000～1,500名）では、全国7位となっています。

■共同研究件数・金額（年度別）

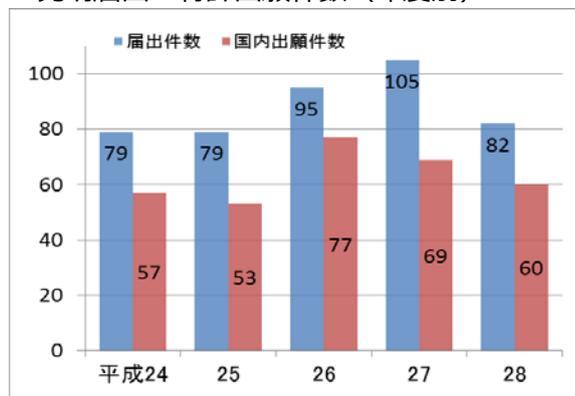


□特許活用の状況

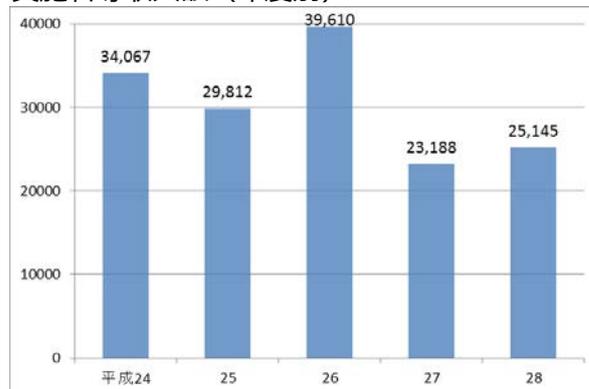
研究の成果によって生み出された大学の特許は、実施料収入等だけを得るのではなく、大学の研究成果が社会で最大限活用されるための手段として利用されています。

特許が社会で有効活用され社会貢献できると判断されるときは、技術移転（企業へ特許の使用許諾をすること＝ライセンス）による活用を図ります。

■発明届出・特許出願件数（年度別）



■実施料等収入額（年度別）



平成28年度は発明届出数が82件と微減しましたが、実施料等収入は25,145千円と微増しました。文部科学省「平成27年度大学等における産学連携等実施状況調査」では、ランニングロイヤリティ（製品の売上高等に応じて支払われる実施料）収入があった特許権数で見ると、全国2位と実効性の高いライセンスを行っています。

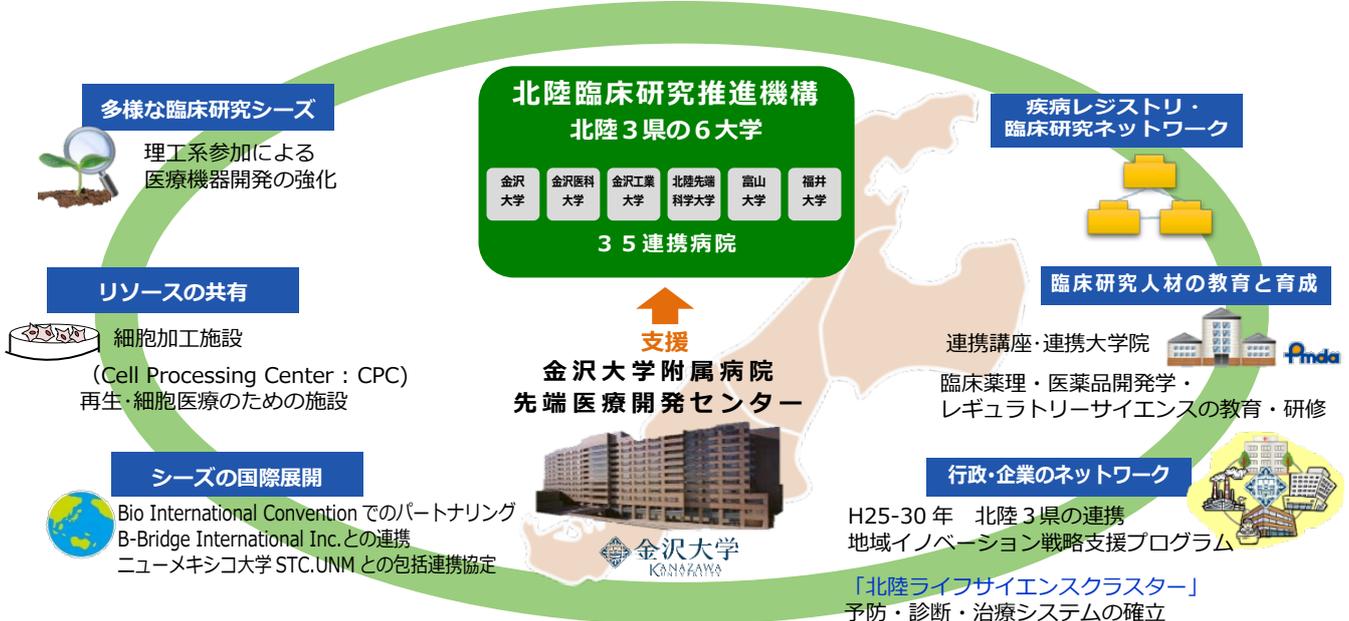
附属病院の特色ある取り組み

附属病院は、平成20年度に「医学部附属病院」から「大学附属病院」となり、医薬保健学域のための教育研究施設として、①医薬保健学域・医薬保健学総合研究科学生や研修医・医療従事者の教育・研修・キャリアアップ、②全学的な橋渡し研究や臨床研究の推進、③先進的、高度な医療の提供、④北陸地域の中核病院としての地域医療への貢献を通じて、本学の教育・研究・診療・社会貢献に寄与しています。

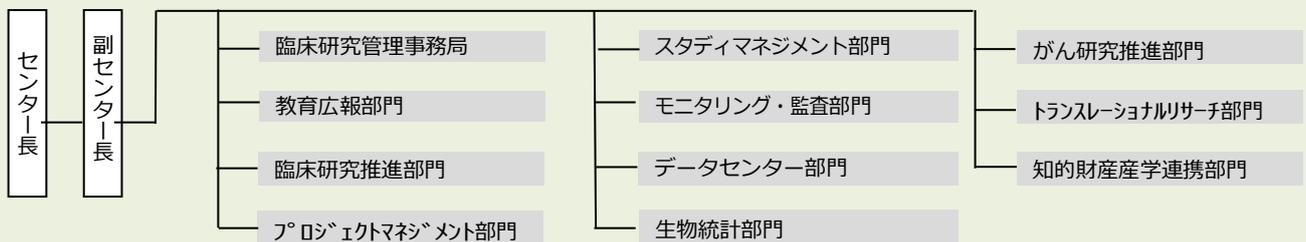
臨床研究の推進

北陸6大学と基幹病院で北陸臨床研究推進機構を構成し、また、中部先端医療開発円環コンソーシアムに参加し、北陸発の医薬品・医療機器・診断治療手段の開発を目指しています。さらに、橋渡し研究や臨床研究、治験が倫理的・科学的に適正に行われるよう**先端医療開発センター**を整備し、研究支援を行っています。

北陸臨床研究推進機構 北陸3県にまたがる臨床研究ネットワーク



先端医療開発センター（平成29年5月現在）



平成28年度に承認された金沢大学の先進医療

平成29年4月現在

No.	先進医療技術名	診療科	受理日	算定開始日
1	腹腔鏡下広汎子宮全摘術（先進医療A）	産科婦人科	H28.6.23	H28.7.1
2	急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変（MRD）量の測定（先進医療A）	血液内科 小児科	H29.1.25	H29.2.1

※ 先進医療A：未承認、適応外の医薬品、医療機器の使用を伴わない医療技術など

社会貢献の特色ある取り組み

様々な学びの機会の提供

講習会や研修事業、公開講座等を通して様々な学びの機会を提供し、個人の要望や社会の要請に応え、生涯学習の振興そして学びの「輪」の共創と循環に寄与します。

文部科学省「職業教育実践力育成プログラム」(BP)

2015年12月、本学で実施している2件のプログラムが、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣の認定を受けました。

1. 能登里山里海マイスター育成プログラム

世界農業遺産に認定された能登の里山里海を未来に伝える人材を養成するため、能登の豊かな地域資源を正しく評価し、多様な職種の人々との連携により、新たなビジネス創出と誇りある地域づくりにつなげることができる人材を育成します。また、珠洲市と本学が共同で出資(独自予算)し、これまでにない地域と大学の密接なネットワークを構築しています。



Brush up Program
for professional

2. 金沢大学社会教育主事講習

社会教育主事の資格付与を目的とし、社会教育主事に求められる資質・能力の向上と、学びを通じた絆づくり、活力あるコミュニティの形成に寄与する人材を育成します。

講義のほか、県別研修・現地研修におけるフィールドワークやワークショップ、コミュニケーション力向上のための参加型学習により、地域の生涯学習コーディネーターとしての実践力を身につけることを目指します。

金沢大学公開講座

価値観の多様化、高度化する学習ニーズに対応し、一人一人の自発的な学習活動を支援するため、幅広い分野の講座を企画し、生涯にわたる学びをサポートします。

2016年度 29講座開設 受講者 567人(うち遠隔地配信受講116人)



生涯学習の拠点 「サテライト」

2000年9月に金沢市内にサテライト・プラザを設置し、生涯学習の拠点として活用しています。2014年度には新たな「学びの場」として珠洲市内、小松市内にサテライトを設置し、遠隔地教育システムを導入しました。これにより、能登地区・加賀地区の住民の皆様にも公開講座などを受講しやすい体制を整えています。

世界遺産に教育研究拠点 金沢大学五箇山セミナーハウス

2016年4月、富山県南砺市相倉に「金沢大学五箇山セミナーハウス」を開所しました。このセミナーハウスは、2014年12月に本学と富山県南砺市が締結した包括連携協定に基づき、地域社会の形成及び発展に寄与するため、南砺市の支援を得て世界遺産・五箇山相倉合掌造り集落内に設置されたものです。

不定期に開催するミニ講座「シリーズ 世界遺産で学ぶ」ではインターネットによる同時配信を導入し、本学の研究成果を五箇山から世界中に発信しています。



社会貢献の特色ある取り組み

地（知）の拠点整備事業（COC 事業）

 地(知)の拠点

地域の感性を備えた人材を育て社会をつなぐ「地(知)」の拠点【平成 25 年度採択】

地域



地域を知り地域と共に歩く人材を育成し、丁寧な対話による地域課題の解決に寄与し、社会人の学びの場を提供する大学



金沢大学

アカデミア部門
(教育)

全学必修科目「地域概論」と特設プログラム「総合地域論」の新設
・「地域概論」を 4 学類で試行
・「旅遊学證（りょゆうがくしょう）」の発行

地域ニーズ・シーズ部門
(研究)

複雑に絡み合う地域課題解決に向けた「多対多」の異分野融合・地域志向研究を推進
・「七尾市産業・地域活性化懇話会」の分科会開催

インテリジェント・ライフ部門
(社会貢献)

地域のインテリジェント・ライフ創造拠点としての機能強化
・本学の講座を「e 講座」で無償配信
・公開講座やミニ講演を 小松・珠洲サテライト で遠隔地配信

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+ 事業）

 地(知)の拠点

金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成【平成 27 年度採択】

学卒者（若者）の地元定着に向けた 3 つの取組

1. ICT 教育カリキュラムの開発・実施

県内全学生が受講できる科目「地域創生概論」により石川の文化・地域資源の理解を促す。2017 年度は、金沢市との連携によりスマートフォンアプリを利用した受講に対応。県内 8 大学 5,000 人が受講予定。

2. 共創インターンシップの開発・実施

学生キャリア・ライフ・デザイン開発をベースに、各地域における優良企業、地域で活躍する社会人とのマッチングを実施。各教育フィールドの地域特性を生かしたインターンシップを開発する。県と開催したインターンシップフェスには 1,686 名の学生が参加(2017.5月)。

3. 起業環境構築「innova-emotion」

大学の知を活用し、若者に夢のある起業モデルを構築する。若い「知」の集積した場所に「夢」を実現するための自由な起業環境として 起業塾「いしかわ未来アカデミー」を開講。2016 年度は 23 名が修了。

「地域思考型教育」による地域定着、雇用増に向けた 5 年間の取り組みにより

石川県内の就職率 10%向上を目指す

能登を愛する地方創生人材

里山里海分野
・世界農業遺産
・エコツーリズム 等

金沢を愛する地方創生人材

国際文化都市づくり分野
・観光・伝統工芸文化
・ユネスコ国際文化都市 等

加賀を愛する地方創生人材

モノづくり分野
・産業・クラフトマンシップ
・中山間地域のモノづくり 等

 いしかわ学生定着推進協議会 (会長：山崎光悦金沢大学長)

県内の全自治体と 8 大学による協定締結とあわせて発足 (平成 28 年 1 月 20 日)

オールいしかわ体制で県内の大学生をバックアップし、学生の県内定着に取り組む。

県出身の中田ヤスタカ氏、本谷有希子氏らが仕事の情熱を語る冊子「**emotion**」を発行 (2017 年 3 月)
様々な分野で活躍する県ゆかりの著名人の emotion を学生の県内定着に繋げるため、県内学生 6,000 名に配布。

Web サイト「いしかわには、夢がある」 <http://ishikawadream.org/>



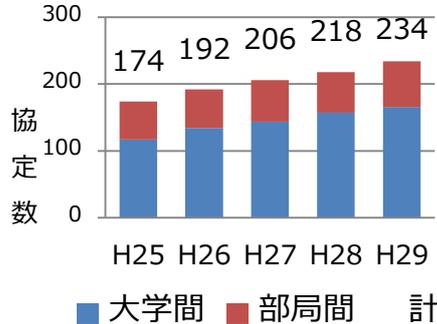
留学・国際交流の状況

日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ環境の醸成

国際交流協定校の拡大

本学は、世界44か国1地域の機関と協定を締結し、幅広く交流を行っています。特に、環日本海域の基幹大学、東アジアのアカデミアの拠点として、中国、ASEAN諸国をはじめとするアジア地域との交流を積極的に推進しています。

**国際交流協定校等が
174 機関から 234 機関に増加**



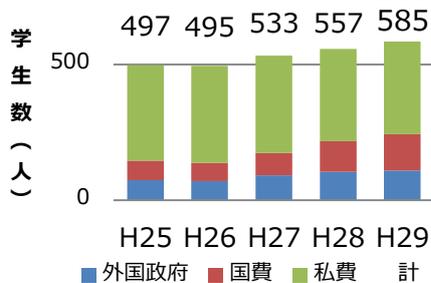
総数 234 機関
(44 国 1 地域)

地域別内訳	大学間	部局間	計
アジア	103	42	145
ヨーロッパ	25	13	38
北米	10	5	15
中南米	7	-	7
ロシア	5	3	8
オセアニア	7	2	9
中東	5	1	6
アフリカ	3	2	5
国際機関	1	-	1
計	166	68	234

留学生の受入・学生の海外派遣

学生交流の覚書を締結している交流協定校と相互に学生派遣と受入を行い、また、特別な協定に基づいた政府派遣留学生の受入や国費外国人留学生の優先配置プログラム等を通じて、日本人学生と外国人留学生が切磋琢磨し、学び合える環境作りを行っています。

キャンパスに約 580 人の留学生



●特別協定に基づく外国政府派遣留学生受入れ

(H29.5.1 現在)

インドネシア政府	59 名
ベトナム政府及びメコン州政府	22 名

●国費外国人留学生優先配置プログラム

環境要因による疾病の解明と防止を担う国際医療人育成プログラム	博士・博士後期 10 名
アジア・アフリカの環境・エネルギー技術を担う国際人材育成プログラム	博士前期 5 名 博士後期 5 名
数物科学のグローバル人材育成プログラム	博士前期 5 名 博士後期 3 名

●SGU 採択校への優先枠・・・国費外国人留学生 10 名

派遣留学（6か月～1年）

海外経験、異文化体験、語学力向上及び海外における専門教育を体験（参加学生数：52 人）

語学研修等短期海外研修（1～6週間）

海外経験、異文化体験及び語学力向上（参加学生数：450 人）

日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度による派遣（8日～1年）

平成 28 年度派遣数：213 人

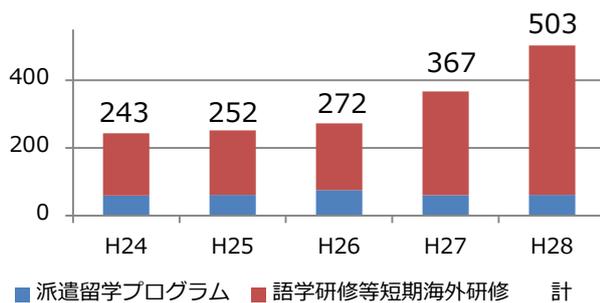
（注：本制度による派遣留学、語学研修参加者もいるため、人数は上記と一部重複）

官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～による派遣

平成 32 年までに海外留学を倍増する政府の目標の下、官民が協力して支援するプロジェクト
平成 28 年度派遣数：15 人

海外への学生派遣の奨励

本学では、交流協定校への長期の派遣留学制度、語学研修や特定のプログラム等による短期留学制度があり、学生の積極的な参加を呼びかけています。また、それらの留学を支援する奨学金制度があります。



国際機構留学生センター

留学生交流推進への寄与を目的として、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に、必要な教育及び指導助言等を行っています。

- 外国人留学生に対する日本語、日本文化及び日本事情に関する教育、修学上及び生活上の指導助言、予備教育
- 海外留学を希望する学生に対する修学上及び生活上の指導助言
- 留学生教育の調査研究
- 短期留学プログラムの実施

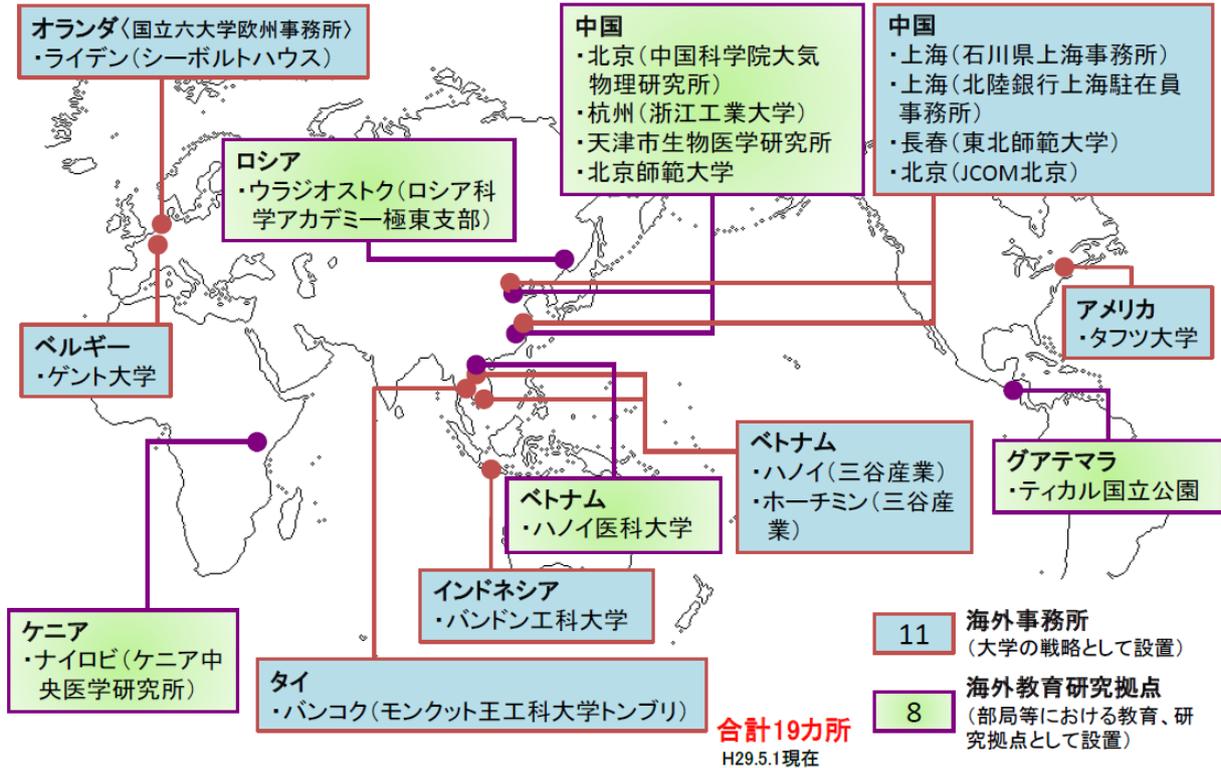


留学支援等

留学と国際交流を促進する強固な海外ネットワーク

金沢大学海外リエゾンオフィス

リエゾンオフィスの役割
 ・現地学生のリクルート、現地入試
 ・留学のための諸手続
 ・現地との共同研究、海外インターンシップ等の拠点



海外同窓会 (設立年度)

ボストン支部 (H21)、ベトナム (H25)、ミャンマー (H25)、タイ (H26)、中国 (H26)、インドネシア (H27)

帰国留学生の交流ネットワークを構築し、同窓生をサポートするとともに、本学の現地での活動への協力を得るために、海外同窓会の設立を支援しています。



中国北京で金沢大学北京事務所開所式 (H29.3.25)

中国は、本学のスーパーグローバル大学創成支援事業における重点交流地域の1つであり、今後この事務所を活用して留学生の募集、本学からの派遣学生の支援や海外共同研究の促進などを推進していく予定です。



国立六大学国際連携機構 (SUN/SixERS)

千葉大、新潟大、岡山大、長崎大、熊本大と連携し、各大学の強みを生かして、国際的プレゼンスの向上を図る。



1. 共同学生交流プログラムの実施
2. 海外の有力大学連合 (AUN 等) との交流推進
3. 国際化に資するための共同事業

コラボラティブ・プロフェッサー制度

本学の卒業生・修了生及び本学での業務経験者等で、海外の高等教育機関等に所属し、本学の国際化の推進を支援する教員、研究者等に委嘱するもので、海外において本学の学生募集、派遣学生のフォローアップや国際共同研究の推進などを行います。



金沢大学スーパーグローバル ELP センター*

協定校であるタフツ大学 (米国) の協力により、学生・教職員向けに、集中講義と e ラーニングを行う英語研修プログラムを開講 (センター設置:H27.3)



*ELP: English Language Programs

学習支援

入学から卒業・修了までの手厚い支援

アカデミック・アドバイザー

学生の進路決定支援（アカデミック・アドバイジング）および学修支援を担当するアカデミック・アドバイザー2名を配置し、入学直後から大学での学びを支援する体制を整備しています。



学習支援相談所

学習支援相談所は平成26年度に開設し、学生一人ひとりの学習面での疑問や悩みに応え、アドバイスやサポートを行っています。※休業期間中を除く

時間・場所：月～金（14:30～18:00）、中央図書館3階・自然科学系図書館

対応者：アカデミック・アドバイザー、ラーニング・アドバイザー（LA）、留学生ラーニング・コンシェルジュ（LeCIS）

具体的内容：①学生に対する学習支援、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの方法

②講義の受け方・ノートのとり方、テキストの読み方、資料文献の探し方、外国語学習支援



なんでも相談室「～よるまっし～」

「よるまっし」は、金沢の方言で「寄っていきなさい」、「寄ってみませんか」という意味です。気軽に寄っていけるようにと、サブタイトルに取り入れました。

時間と場所：授業期間中の平日、総合教育講義棟2階

予約受付可：電話、メールで予約受付が可能

相談体制等：教員及び学生相談員による相談体制

必要に応じ専門分野の教員や保健管理センターなどを紹介することもあり

内容等：悩みや相談に応じてアドバイスやサポートを行う。相談内容は秘密



障がい学生支援室

全学的な障がい学生支援体制の整備のため、平成27年度に設置しました。障がい学生のニーズを把握し、障がいの状況に応じてノートテイク、パソコンテイクや学習支援チューターの配置など、適切な教育上の配慮や支援を行っています。



英語学習アドバイザーの配置

TOEICのスコアアップなど、学生の英語能力向上を目的に、学生が授業の事前事後の自習時間を確保し、自律学習者となるため、英語学習支援のアドバイザーを配置しています。

経済支援

入学料免除・入学料徴収猶予

学域生においては学資負担者の死亡・災害により、大学院生においては経済的な理由及び優秀な学業成績により、選考の上、入学料の全額、または半額を免除する制度や入学料の納入を猶予する制度があります。

平成28年度入学料免除実施状況					(名)	
免除・猶予区分	学士課程		修士・博士課程		計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全額免除許	0	13	0	0	13	0
半額免除許	—	28	4	4	28	4
徴収猶予許	11	0	0	0	11	0

授業料免除

経済的な理由によって授業料の納付が困難な学生で、かつ学業成績優秀と認められる学生には選考の上、授業料の全額、半額又は一部を免除する制度があります。

平成28年度授業料免除実施状況					(名)	
免除区分	学士課程		修士・博士課程		計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全額免除許可	383	478	209	189	592	667
半額免除許可	244	217	147	166	391	383

経済支援

奨学金

平成 28 年 10 月 1 日現在

本学が取り扱う奨学金は、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体及び民間育英団体の奨学金です。奨学生の条件は、“主に学業成績が優秀で学資支弁が困難である者”です。

日本学生支援機構（JASSO）奨学金(第一種, 第二種)利用者数			
事項	学士課程	修士・博士課程	計
学生数	7,852 名	2,330 名	10,182 名
利用者数	2,627 名	517 名	3,144 名
利用率	33%	22%	31%

奨励金〔平成 28 年度の実績〕

- 法務研究科学生奨励支援 月額 5 万円 : 5 名
- 異分野融合型人材育成「大学院 GS プログラム」奨学金 月額 5 万円 : 17 名
- 文化資源マネージャー養成プログラム(博士課程教育リーディングプログラム) 奨励金 月額 14 万 5 千円 : 23 名
- 環境技術国際コース日本人学生語学奨励金 一時金 10 万円 : 2 名
- 環境技術国際コース日本人学生学術研究奨励金 半期 5 万円 : 3 名×1 期
- 環境技術国際コース留学生学術研究奨励金 月額 5 万円 : 1 名×1 期
- 外国人留学生修学支援 (過去に本学に短期留学していた外国人留学生が正規生入学した場合に 25 万円または 20 万円を支援) 25 万円 : 2 名
- 派遣留学支援 (交換留学:派遣留学制度で学術交流協定を締結する海外の大学へ留学する学生) 20 万円 (アジア圏以外) : 1 名
- 海外派遣留学奨励奨学金 (海外留学により、修業年限 (標準修業年限) を超えて在籍する学生) 年額 50 万円 (半期 25 万円) : 34 名
- 海外派遣留学奨励奨学金 (フィールド調査、サークル、インターシップ、ボランティア、国際機関などや自身が企画したプロジェクトなどで海外渡航した学域学生) 3 万円 : 12 名
- その他の特別な国際交流プログラム等
 - ASEAN YOUTH Summit 参加者 8 万円 : 4 名
 - トビタテ! 留学 JAPAN 面接旅費 2 万 5 千円 : 26 名
 - JASSO 奨学金不採択支援 月額 3 万円 : 34 名 4 万円 : 66 名
- 官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム～
 - H28 年度実績 : 第 4 期 全国枠 4 名, 地域枠 2 名 計 6 名 (国立大学 13 位)
 - 第 5 期 全国枠 4 名, 地域枠 6 名 計 10 名 (国立大学 8 位)
 - H29 年度実績 : 第 6 期 全国枠 15 名, 地域枠 9 名 計 24 名 (国立大学 2 位)

就職支援室では 就職活動をサポート

- ・就職ガイダンスの開催
- ・就職個別相談の対応
- ・インターンシップ受入先の紹介
- ・インターンシップ参加手続き
- ・業界・企業研究会等の就職支援プログラム実施
- ・求人情報の提供
- ・就職活動関連書籍や DVD の貸出し
- ・学生向け就職ハンドブックの発行
- ・保護者向け、企業向け刊行物の発行 (ほか)



区分	日程	対象学年	行事
共通プログラム	10月	2年	進路ガイダンス
	4月	3年, 修士1年	
	5月~7月	全学年	インターンシップガイダンス
	10月~11月		キャリアラーニングバスツアー
	10月~1月		OB・OG交流会 キャリア支援イベント
民間企業志望者 向けプログラム	10月~2月	3年, 修士1年	就職ガイダンス
	11月~2月		業界・職種研究ガイダンス
	3月に計6日間開催		業界・企業研究会
	4月~6月	4年, 修士2年	OB・OG懇談会/企業説明会
	4月~7月		面接練習会
9月	合同企業説明会		
公務員志望者向 けプログラム	10月~11月	3年, 修士1年	公務員ガイダンス
	11月~5月	3年, 修士1年	官公庁説明会
	5月~6月	4年, 修士2年	公務員ガイダンス
	4月~7月		面接練習会
教員志望者向 けプログラム	11月	3年, 修士1年	教員就職ガイダンス
	5月	4年, 修士2年	教員採用試験説明会
	6月		教員採用試験練習会

主な行事

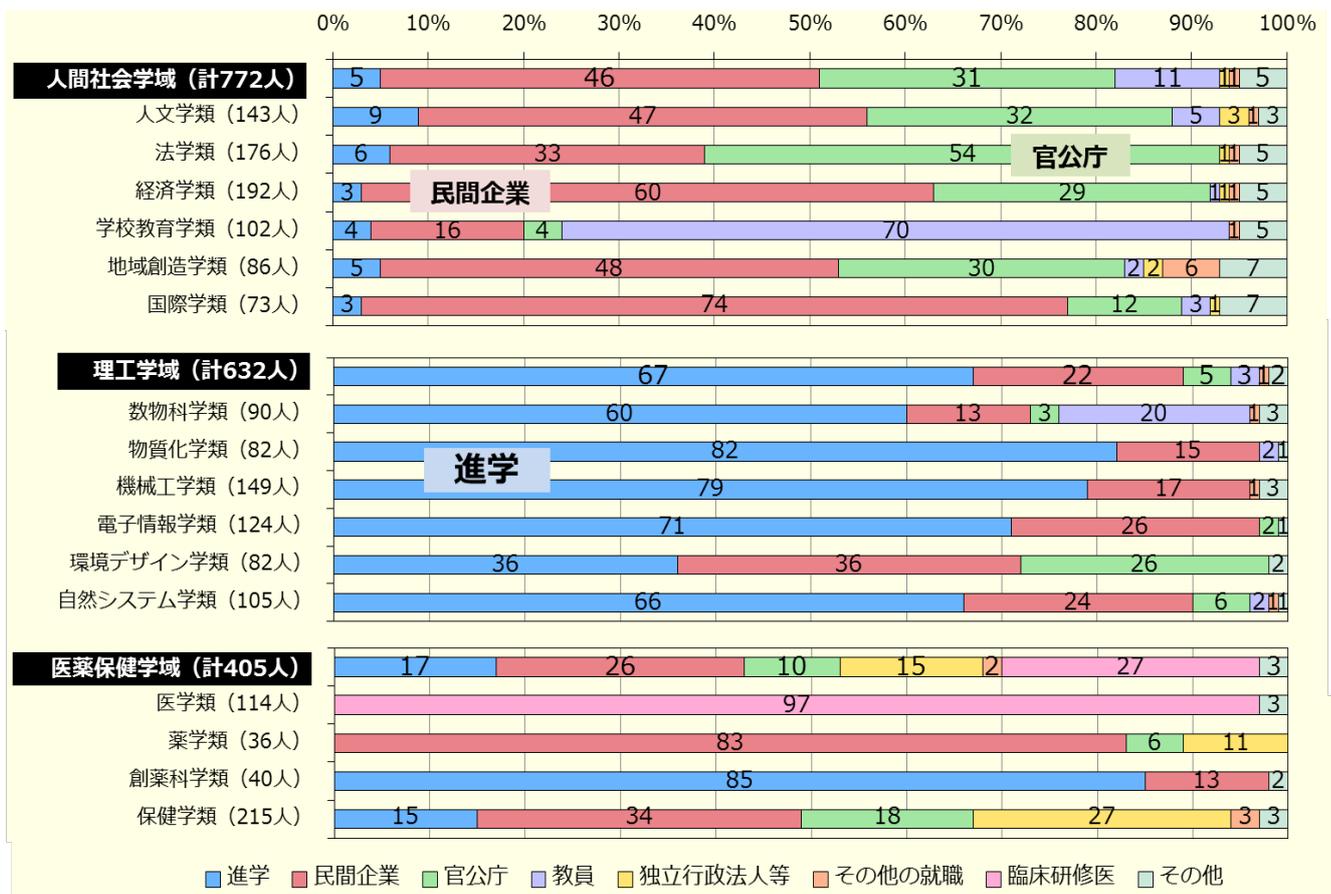
進学・就職状況

本学の平成28年度卒業生（学士課程）の就職率（就職決定者÷就職希望者×100）は99.5%と、前年に続き高い水準で推移しています。また、「大学で学んだ専門分野をもっと深めたい」という学問探究への意欲あふれる学生や「法曹をめざしたい」という学生には、大学院へ進学の道が開かれています。進路の特徴は、卒業生進路状況の表に見られるように、人間社会学域は官公庁への就職者が多く、理工学域は67%が大学院に進学しており、医薬保健学域は医療機関への就職者が多いことが挙げられます。

平成28年度公務員・国家試験合格実績及び教員就職者

公務員・国家試験合格実績					教員就職者	
試験		合格者	試験	合格者	採用	就職者
国家公務員	総合職[旧Ⅰ種]	11名（国立大学21位）	司法	6名	正規 [新卒]	148名
	一般職[旧Ⅱ種]	147名（国立大学5位）	医師[新卒]	112名（合格率97%）		
地方公務員	石川県職員	64名（合格者全体の40%）	薬剤師[新卒]	36名（合格率100%）	非常勤 [新卒]	60名
	金沢市職員	39名（合格者全体の43%）	看護師[新卒]	82名（合格率100%）		

卒業生進路状況



入試情報

3学域・17学類が、みなさんの可能性を拡げます。

募集人員（平成30年度入試）改組を申請中であり、募集人員等については、今後、変更する場合があります。（※印は仮称）

学域	学類	入学定員	募集人員							
			一般入試			推薦入試	帰国子女	AO入試	国際バカリア	私費外国人留学生
			前期	後期	後期一括					
人間社会学域	人文学類	145	100	32	文系 62	—	若干名	—	若干名	若干名
	法学類	170	115	30		10	若干名	—	若干名	若干名
	経済学類	135	110	—		10	若干名	—	若干名	若干名
	学校教育学類	100	64	—		34	—	—	若干名	若干名
	地域創造学類	90	55	10		15	若干名	—	若干名	若干名
	国際学類	85	48	15		15	若干名	—	若干名	若干名
理工学域	数物科学類	84	64	12	理系 82 (薬学類を除く)	—	若干名	—	若干名	若干名
	物質化学類	81	55	18		—	若干名	—	若干名	若干名
	機械工学類	100	252	—		—	若干名	—	若干名	若干名
	フロンティア工学類 ※	110		—		—				
	電子情報通信学類 ※	80		—		—				
	地球社会基盤学類 ※	100	78	12		—	若干名	—	若干名	若干名
	生命理工学類 ※	59	50	—		—	若干名	—	若干名	若干名
医薬保健学域	医学類	107	84	—	22	若干名	—	—	若干名	
	薬学類	35	64	—	—	若干名	3	若干名	若干名	
	創薬科学類	40					6			
	保健学類	看護学専攻	80	55	9	15	若干名	—	若干名	若干名
		放射線技術科学専攻	40	29	5	5	若干名	—	若干名	若干名
		検査技術科学専攻	40	29	3	6	若干名	—	若干名	若干名
		理学療法学専攻	20	15	—	4	若干名	—	若干名	若干名
		作業療法学専攻	20	14	—	5	若干名	—	若干名	若干名

志願倍率（平成29年度入試） 志願倍率は、前期日程が2.3倍、後期日程が8.3倍となっています。

学域	学類	前期日程			後期日程			
		募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	
人間社会学域	人文学類	105	196	1.9	35	239	6.8	
	法学類	L方式	75	180	2.4	30	243	8.1
		M方式	50	116	2.3			
	経済学類	150	317	2.1	25	183	7.3	
	学校教育学類	64	140	2.2	—	—	—	
	地域創造学類	50	111	2.2	10	269	26.9	
国際学類	40	78	2.0	15	129	8.6		
理工学域	数物科学類	69	145	2.1	15	84	5.6	
	物質化学類	61	110	1.8	20	106	5.3	
	機械工学類	120	257	2.1	20	225	11.3	
	電子情報学類	86	153	1.8	22	126	5.7	
	環境デザイン学類	64	139	2.2	10	48	4.8	
	自然システム学類	82	161	2.0	13	129	9.9	
医薬保健学域	医学類	85	266	3.1	—	—	—	
	薬学類・創薬科学類	70	294	4.2	—	—	—	
	保健学類	看護学専攻	55	124	2.3	10	62	6.2
		放射線技術科学専攻	29	78	2.7	5	50	10.0
		検査技術科学専攻	29	50	1.7	5	67	13.4
		理学療法学専攻	15	48	3.2	—	—	—
作業療法学専攻		15	51	3.4	—	—	—	

合格者得点率〔センター試験〕（平成 29 年度入試）

合格者のセンター試験における最高点，最低点及び平均点を得点率（％）で表しています。

学域	学類	前期日程			後期日程			
		最高点	最低点	平均点	最高点	最低点	平均点	
人間 社会 学域	人文学類	84.8	70.7	76.9	92.1	74.0	85.0	
	法学類	L方式	87.2	69.4	75.9	85.9	75.8	80.4
		M方式	86.7	67.9	75.2			
	経済学類	83.8	66.5	73.8	84.6	72.3	79.3	
	学校教育学類	87.0	65.6	73.7	—			
	地域創造学類	81.4	69.4	74.3	96.2	76.0	87.8	
	国際学類	87.6	73.3	78.1	87.0	76.8	82.0	
理工 学域	数物科学類	83.2	64.2	72.4	84.8	76.0	79.7	
	物質化学類	82.6	67.0	73.9	86.4	65.8	79.0	
	機械工学類	82.9	59.6	72.4	96.8	70.0	86.4	
	電子情報学類	84.3	60.9	73.2	91.2	78.7	84.8	
	環境デザイン学類	82.4	62.5	73.2	85.0	75.1	80.8	
	自然システム学類	83.3	64.8	72.8	90.9	81.7	85.1	
医薬 保健 学域	医学類	93.7	80.3	86.5	—			
	薬学類・創薬科学類	88.2	73.7	80.9	—			
	保健 学類	看護学専攻	78.3	63.1	70.2	79.2	58.4	70.0
		放射線技術科学専攻	83.0	71.5	76.2	※	※	※
		検査技術科学専攻	82.1	70.1	76.2	※	※	※
		理学療法学専攻	85.9	70.8	75.2	—		
		作業療法学専攻	73.8	61.6	67.4	—		

「※」印の欄は募集人員又は合格者が10人未満のため，得点等を開示しないものです。

入学者都道府県別内訳 （平成 29 年度入試）

入学者の地域別内訳の順は，以下のとおりです。

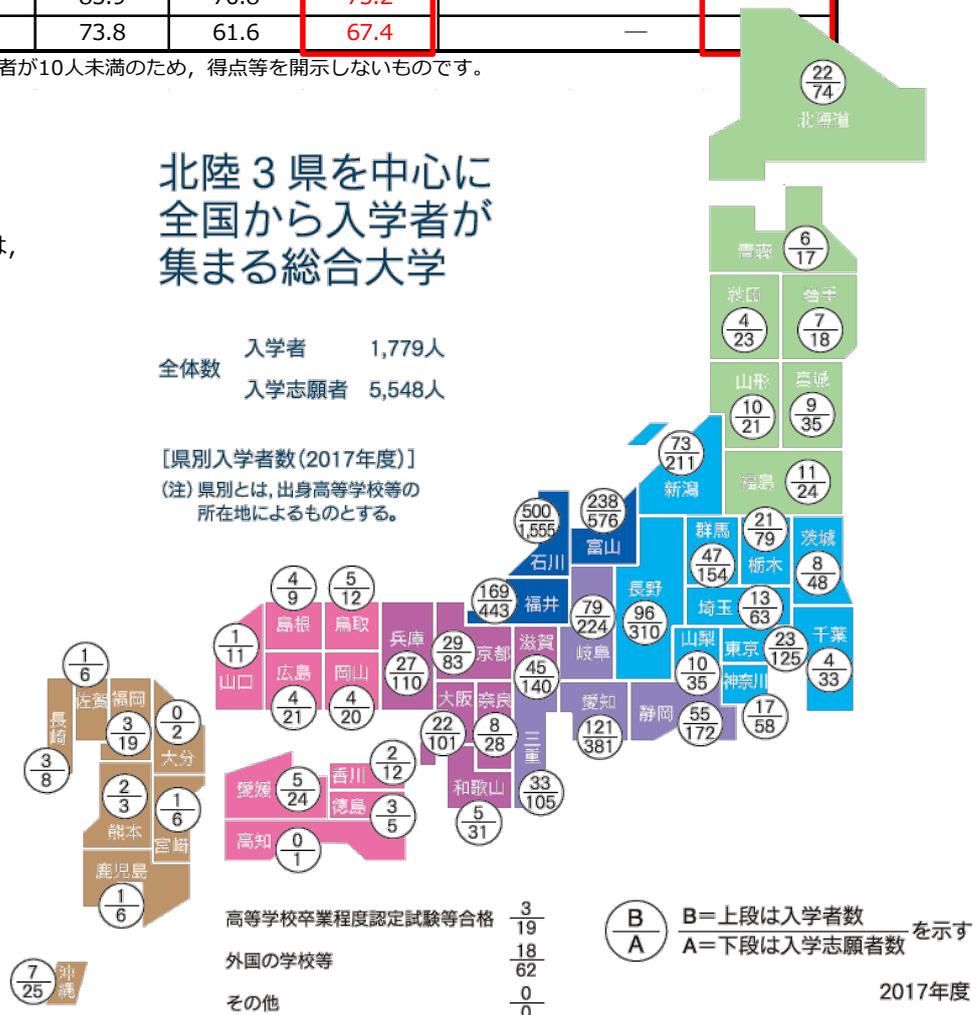
北陸 3 県	51.0%
関東・甲信越地域	17.5%
東海地域	16.2%
近畿地域	7.6%

北陸 3 県を中心に 全国から入学者が 集まる総合大学

入学者 1,779人
入学志願者 5,548人

〔県別入学者数(2017年度)〕

(注) 県別とは，出身高等学校等の所在地によるものとする。



高等学校卒業程度認定試験等合格 $\frac{3}{19}$
 外国の学校等 $\frac{18}{62}$
 その他 $\frac{0}{0}$

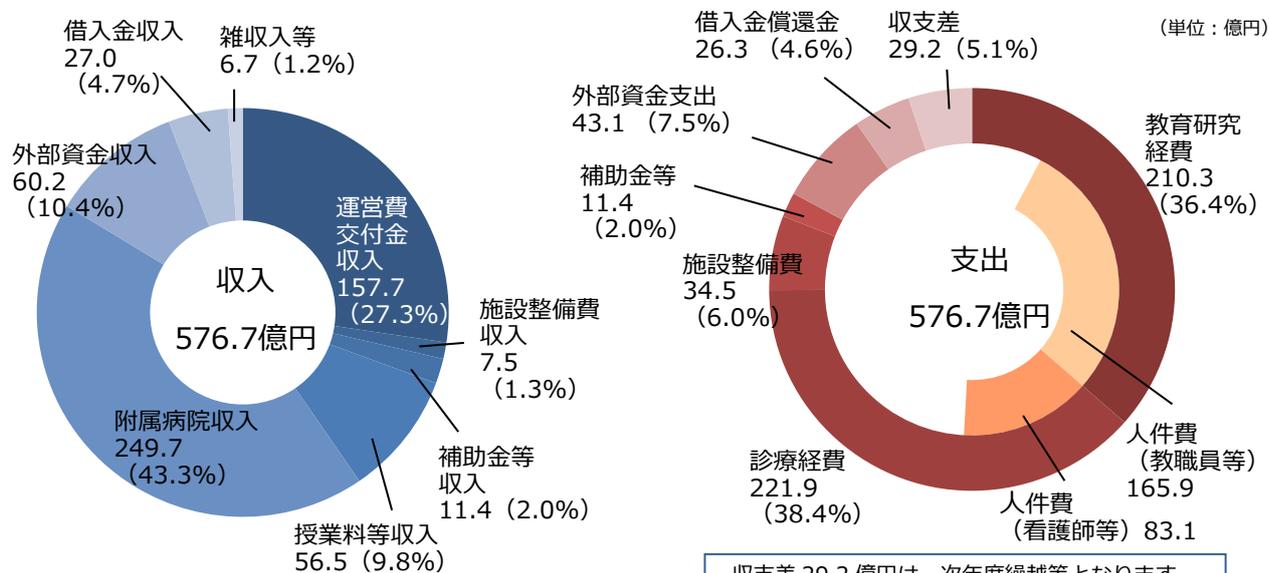
$\frac{B}{A}$ B=上段は入学者数
A=下段は入学志願者数

2017年度

財務状況

～ 困難な財政状況に立ち向かう金沢大学の今 ～

金沢大学の財務状況



自治体との比較について

本学の平成 29 年度予算額は 584 億円です。金沢大学の予算額を地方自治体の平成 29 年度一般会計予算額と比較すると、石川県の約 1/9、金沢市の約 1/3 となっています。

【平成 29 年度 一般会計当初予算額】

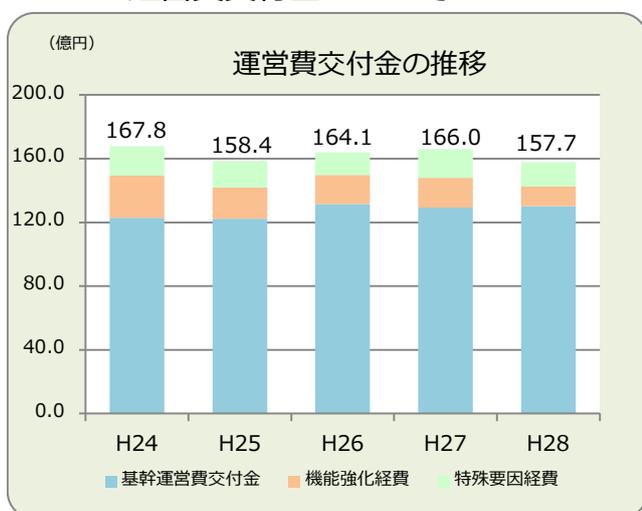


【石川県に及ぼす経済波及効果】



本学の石川県への経済波及効果については、北陸新幹線の開通による波及効果の約 9 倍という推計もあることから、地域経済の活性化に大きく貢献しているといえます。
(平成 27 年 2 月 本学教員の研究データによる)

運営費交付金について



運営費交付金は大学の業務運営の基盤となる財源として、国から毎事業年度交付されます。

平成 28 年度は約 158 億円が交付され、これは**本学収入合計額の約 27%**に相当します。

平成 28 年度の本学への運営費交付金は、機能強化経費及び特殊要因経費の減額により、**平成 27 年度に比べて約 8 億円減少**しています。

国の厳しい財政状況により、本学の大学運営の基盤となる基幹運営費交付金は減少傾向にあり、この減少分を補うべく、引き続き安定した自己収入の確保、外部資金の更なる獲得及び業務コストの削減に努め、財政基盤の強化を図っていきます。

運営費交付金には、①大学運営の基盤となる「基幹運営費交付金」、②大学独自のプロジェクトや大学改革などに充てる「機能強化経費」、③退職手当や特殊要因等の変動的な経費として「特殊要因経費」があります。

教育関係経費について

平成 28 年度の学生の教育に要した経費は約 149 億円となり、平成 27 年度に比べて、約 4 億円増加しました。

この教育関係経費を**学生一人当たり**に換算すると、**年間約 145 万円**が学生の教育目的に使用した金額です。これらは、本学が掲げる「専門知識と課題探求能力、そして国際感覚と倫理感を有する人間性豊かな人材の育成」という教育目標の達成のために活用しています。

教育関係経費の内訳

(単位：百万円)

区分	27年度	28年度	増減
教育経費	2,816	2,768	△ 48
教育研究支援経費	594	658	+64
教員人件費 ^{*1}	10,382	10,795	+413
職員人件費 ^{*2}	649	651	+2
合計	14,441	14,872	+431
学生数	10,272人	10,267人	△5人
学生一人当たり教育関係経費	約141万円	約145万円	+約4万円

*1 教員人件費については、教育を目的としたセグメントに所属する教員の人件費です。

*2 職員人件費については、学生部及び3学域における学生課職員の人件費です。

研究関係経費について

研究関係経費の内訳

(単位：百万円)

区分	27年度	28年度	増減
研究経費	5,149	4,872	△ 277
外部資金	3,680	4,129	+449
合計	8,829	9,001	+172
常勤教員数	1,102人	1,184人	+82人
常勤教員一人当たりの研究関係経費	約801万円	約760万円	△約41万円

平成 28 年度の研究関係経費は約 90 億円で、平成 27 年度に比べ、約 2 億円増加しました。

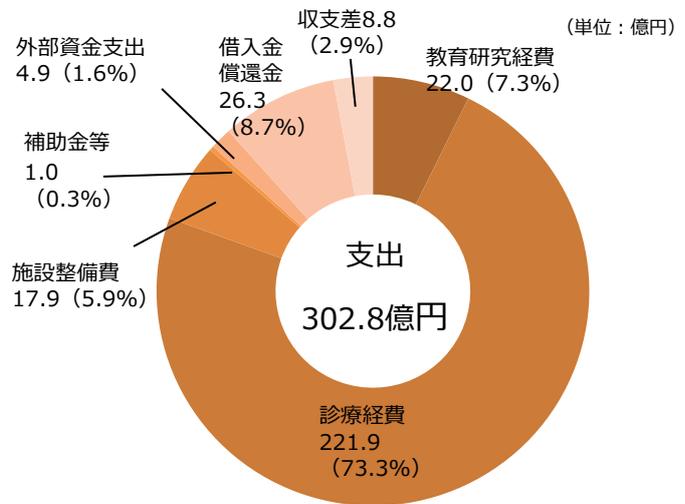
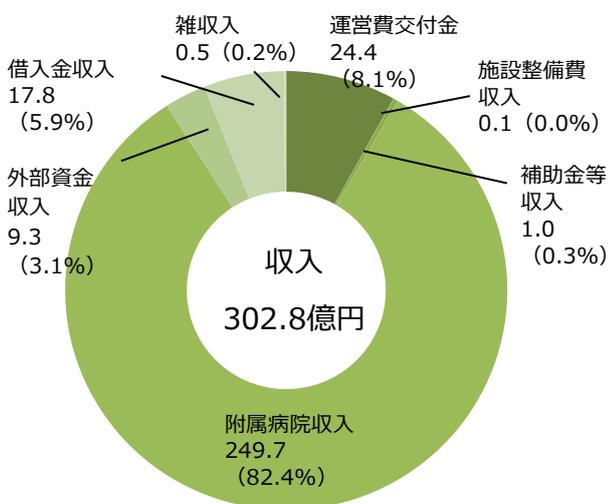
外部資金の獲得に努めたことから、平成 27 年度を上回る規模となっています。

この研究関係経費を**常勤教員一人当たり**に換算すると**年間約 760 万円**です。

附属病院について

附属病院収支が**本学の収入に占める割合は約 53%**、**支出に占める割合は約 54%**であり、その事業規模の大きさからも大学全体の財務運営に与える影響は大きく、健全で安定的な病院経営が不可欠です。

そのため、経営状況についての分析とそれに基づく増収に向けた様々な取組の実施、物品及び役務契約の見直し等による調達コストの削減など、更なる経営改善に向けて努力しています。



※ 文部科学大臣の承認を受けるまでは、金額等の変更が生じることがあります。

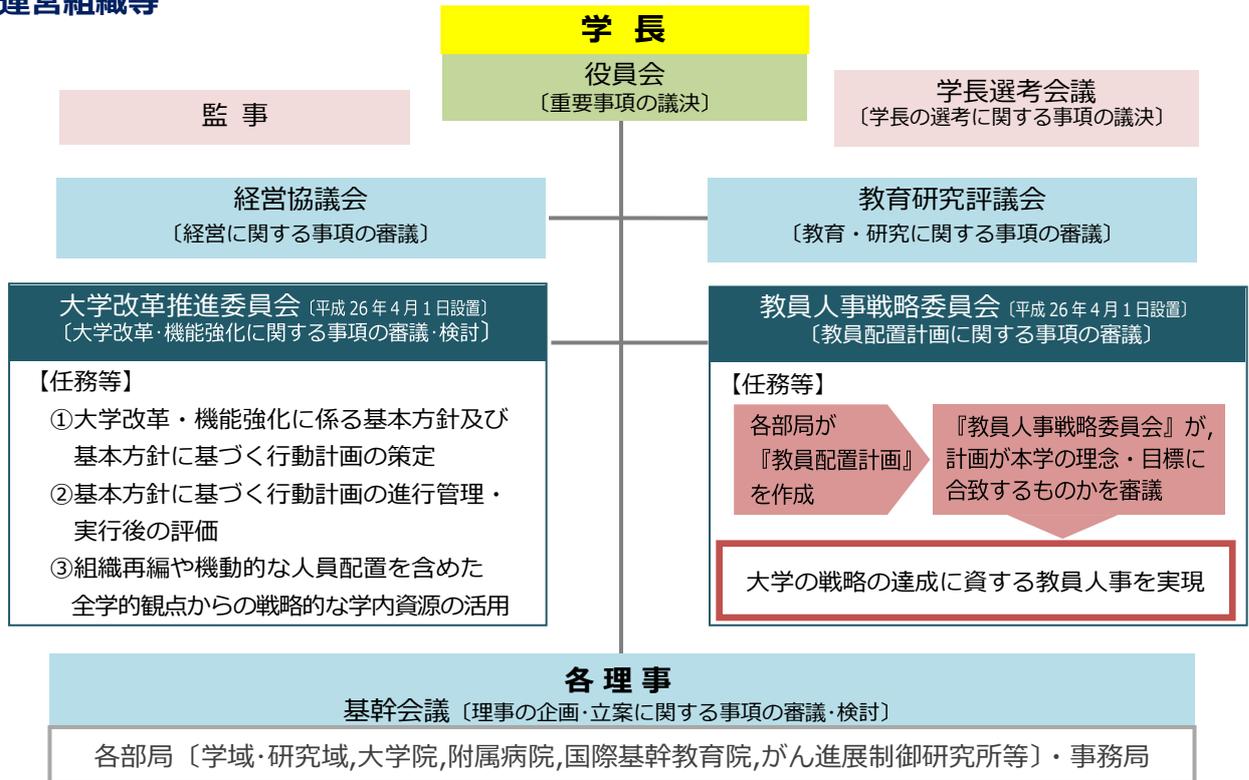
施設整備

金沢大学における主な施設整備事業

平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・(宝町)医学類[臨床]とりこわし ・(宝町)総合研究棟改修Ⅱ(医学記念館) ・(小立野)旧工学部跡地とりこわし[1-2 工区] 	H26.02~H27.03 H26.08~H27.03 H26.03~H27.05	
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・(宝町)パブリックスペース環境整備[寄付金事業含む] ・(小立野)旧工学部跡地とりこわし[3-4 工区] ・(宝町・病院)病棟ナースコール設備改修 ・(角間)薬草園備蓄倉庫新営 	 <p>宝町『パブリックスペース』</p>	H26.11~H27.10 H27.03~H27.12 H27.06~H28.03 H27.12~H28.03
平成 28 年度	<p style="text-align: center; border: 1px solid purple; padding: 2px;">グローバル化に対応した教育研究環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(角間)学生留学生宿舍「先魁」Ⅱ期新営 ・(宝町・病院)駐車場及び屋外通路環境整備 ・(角間)ライフライン再生Ⅰ〔空調設備〕 ・(鶴間)保健学類 1 号館個別空調設備取設 ・(宝町)学際科学実験センター 高圧受変電設備改修 ・(角間北)人間社会 3 号館他電気錠改修 ・(東兼六)特別支援学校校舎等いす式階段昇降機取設 	 <p>『北溟』(先魁Ⅱ期)</p>  <p>病院駐車場及び屋外通路環境整備</p>	H28.07~H29.03 H26.11~H28.06 H28.07~H29.03 H28.08~H28.11 H28.09~H29.02 H28.09~H29.01 H28.08~H28.11
	<ul style="list-style-type: none"> ・(宝町)総合研究棟改修(保健学類) 	<p style="text-align: center; color: red;">H28 補正事業</p>	H29.03~H29.11
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・(宝町・病院)中央診療棟手術室改修 ・(角間)基幹・環境整備〔空調設備〕 ・(角間)総合教育 1 号館他電気錠改修 ・(角間)総合メディア基盤センター情報機器室空調設備改修 ・(平和町)附属高等学校いす式階段昇降機取設 ・(角間)自然科学 5 号館照明設備等改修(廊下及び階段) 		H29.03~H29.10 H29.09~H30.03 H29.09~H30.01 H29.09~H30.01 H29.07~H29.09 H29.07~H29.09
平成 30 年度以降	<ul style="list-style-type: none"> ・『インフラ長寿命化計画(個別施設計画)』及び『中長期修繕計画』の策定 ・(宝町・病院)立体駐車場新営 予定 		

ガバナンス体制

◆ 運営組織等



部局長ヒアリング制度 （平成26年度導入）

学長が部局長との面談を通じ、部局長の部局運営方針とその成果を、大学全体の運営方針との整合性の観点から調整及び評価

◆ 教員人事制度

平成29年3月末現在

年俸制 H27.1.1 導入	獲得した競争的資金に係る間接経費の額に応じて、年俸額を加算する等、業績を処遇に適切に反映する仕組みを設けた年俸制を導入	年俸制適用教員数 132名 ※全教員の12.5%
リサーチプロフェッサー制 H27.1.1 導入	優れた教員の確保・研究環境の整備のため、リサーチプロフェッサー制（主として研究に専念する教員・「招へい型」「登用型」「若手型」の3類型）を導入	リサーチプロフェッサー数 招へい型 7名 登用型 11名 若手型 21名
コンカレント・アポイントメント制度 H27.4.1 導入	他の機関との協定に基づき、相手機関の職員としての身分を有する者が、本学の常勤教員として業務に従事することを可能としたコンカレント・アポイントメント制度を導入	コンカレント・アポイントメント制度適用教員数 6名

★ 女性研究者支援 ★

研究パートナー制度

子育て・介護中の研究活動支援として、研究データ解析、実験補助、文献調査、統計処理等の研究補助業務を行う研究パートナーの雇用経費を助成

一時的研究補助員制度

急な妊娠等で研究補助員を必要とする場合に、一時的な補助員の雇用を支援

若手女性研究者支援

優秀な若手女性研究者を有給非常勤研究員として雇用

女性研究者等研究支援制度

女性研究者への研究費の補助

平成29年5月現在

☆ 女性研究者の割合 16.1%
☆ 女子学生（学士）：39.0%
☆ 女子学生（大学院）：26.4%

附属図書館

年間総入館者数は **75 万人** 学生への年間総貸出冊数は **10 万冊**

市民の皆様も年間 **2,900 人以上**が利用

蔵書数は **189万冊**（前身校からの貴重な学術専門書が多数） 土日も開館

ご利用については Web サイトをチェック！ <http://library.kanazawa-u.ac.jp/>

- 来館の利用者（北陸3県在住者）に直接貸出をするほか、公共図書館を窓口とした貸出・文献複写も可能（一部を除く）
- 学生が能動的に学びあう空間、ラーニング・コモンズを全館に設置
- 日本人学生と留学生が日常的に交流を行うことのできる場、国際交流スタジオ・コーナーを全館に設置
- 金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）から、本学教職員の学術成果（論文などのコンテンツ）をインターネット上で世界に向け公開
- 近隣の小中学生を対象に「金大生による“調べ学習”教室」を開催

◆中央図書館(角間キャンパス北地区)

- ・旧制四高時代の貴重資料を含む、人文・社会系の図書や雑誌を中心に所蔵
- ・喫茶「ほん和かふえ。」を設置

◆自然科学系図書館(角間キャンパス南地区)

- ・環境学コレクションをはじめ、理工薬系の図書や雑誌を中心に所蔵

◆医学図書館(宝町キャンパス)

- ・医学・保健学専門の図書や雑誌を中心に所蔵
- ・ブックラウンジに特別支援学校による喫茶「プラタナスカフェ」を設置

◆保健学類図書室(鶴間キャンパス)

- ・医学・保健学専門の図書や雑誌を中心に所蔵



資料館

学都金沢の歴史を体験 **入館無料** 平成 28 年 4 月 **博物館相当施設に指定**

- 文化史、自然史、科学技術史にわたる「学術標本」や「金沢大学史料」を収集・公開
- 加賀藩藩校「明倫堂」「経武館」の扁額、第四高等学校の物理実験機器、著名な宗教家暁烏 敏の陶磁器コレクション等を所蔵
- 特別展・企画展・出張展覧会等を開催し、石川県立自然史資料館との連携事業を実施



開館時間

平日 10:00～16:00

収蔵資料総数

約 86,700 点 (モノ資料 75,700 点
文書資料 11,000 点)

入館者数

7,558 人 (平成 28 年度実績)

同窓会

金沢大学学友会とは **全国と世界に広がる金沢大学学友会**

目的：基幹同窓会を中心とした全国的交流と連携を推進する

ことにより、卒業生相互の交流と親睦を図り、併せて大学との連携及び大学の教育研究活動への支援を行い、大学の発展と社会に貢献します。

設立：平成 23 年 11 月

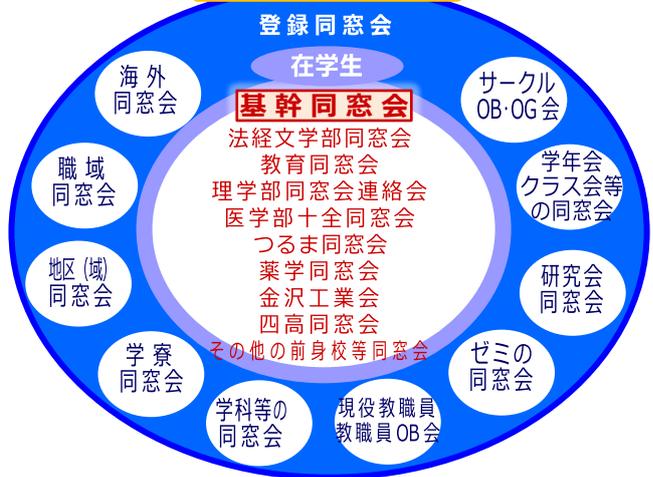
登録団体数：合計 34 団体

基幹同窓会 8 団体

登録同窓会 26 団体（海外同窓会含む）

※平成 29 年 5 月 1 日現在

金沢大学学友会



ホームカミングデイ

本学では、卒業生・修了生に再び母校を訪れてもらう「ホームカミングデイ」を毎年開催しています。

◆第 10 回ホームカミングデイ（平成 28 年 10 月 29 日開催）

式典参加者：176 名（うち学外者 134 名） 懇親交流会参加者：150 名（うち学外者 115 名）

◆第 11 回ホームカミングデイ 開催日：平成 29 年 10 月 28 日（土）

金沢大学基金

金沢大学基金とは

目的：平成 20 年 3 月、本学の学生修学、教育研究等に係る各種事業を支援することにより、我が国の学術及び文化の発展に資すること目的に設立し、平成 28 年 8 月、学生が経済的な理由で修学に困難を来さないように支援することを目的に、もう一つの基金である修学支援基金を設立しました。

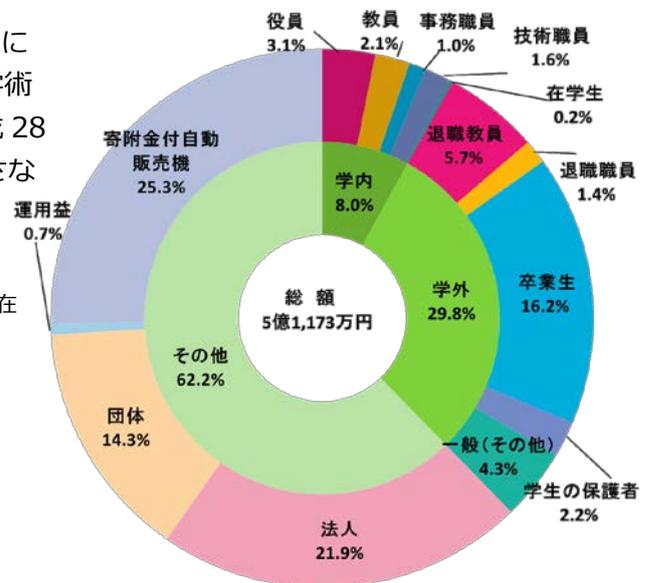
寄附受入累計額：5 億 1,173 万円 ※平成 29 年 3 月末現在

スーパーグローバル大学創成 留学生支援キャンペーン寄附募集

目的：今まで以上に日本から外国へ留学しやすく、外国から日本へ留学しやすい環境整備を進め、異文化体験の機会あふれる大学を目指します。

募集期間：平成 27 年 6 月から 3 年間

目標額：5 億円



**金沢大学基金は金沢大学の
国際交流を支えます**

金沢大学カード



ご利用に応じて得られる手数料収入の一部が金沢大学基金に寄附される、金沢大学カード（金沢大学独自のクレジットカード）を平成 28 年 4 月から導入しました。これは、基金の長期安定的な財源の拡充による本学の教育・研究の充実を図ることを目的とした取り組みです。

金沢大学校歌

作詞 室生犀星

作曲 信時 潔

あま
天つなみ けぶらひ

あま しら
天そそる 白ねの

ほくほう
北方のみやこに学府のありて

さん ともしび
燦たる燈をかかげたり

人は人をつくるため

のろしをあげ

えい ち とき みが
慧智の時間を磨く

は え ひと
栄光ある人間をつくらむと

しんぶうぶんか と
新風文化の扉は開かれ

せだい
あたらしの人 世代にあふれ

さい
手はつながれ 才能は結ばれ

こぞりてわが学府につどへり

こぞりてわが学府につどへり